

法輪大法

長春補導員法会での説法

李 洪 志

長春補導員法会での説法

李洪志

一九九八年七月二十六日

長く皆さんとお目にかかりませんでした。在席の多くはかつて私本人に会ったことのない人であり、このような人は大きな比例を占めています。しかし、皆さんの修煉は良くできており、真に修煉している人が皆ついてきていると言えます。私に会っても、会わなくても同じです。修煉という道のりにおいて、修煉さえしていれば、決して違う待遇はありません。(拍手)

在席の多くは煉功点の責任者で、大法のために大きく貢献した人々です。自分がしていることが非常に簡単なことだと皆さんは感じており、常人の中の責任者のように報酬があるわけでもありません。皆さんは完全に自らの熱意と大法に対する認識に基づいて行っており、見た目は簡単で、何も人を驚かすようなことはありません。しかし、皆さんに教えますが、常人のところでの現れが簡単であればあるほど、皆さんの見えないところでは、皆さんの修煉している境地で本当に天地を揺るがすようなすごいことです。(拍手) つまり、自分の仕事をあまり簡単に見ないでくださいということです。この仕事を行っている以上、それをきちんと行うべきです。なぜならば、高次元の生命もいつも私に言っていますが、皆さんがここで大法のために貢献することができることは、皆さんの将来の生命のために相当長い今後の歴史時期において非常に良い基礎を築きました。つまり、彼らも皆さんのことを羨ましく思い、彼らにもこのようなことをする機会はありません。彼らも皆地球に来たら、収容できなくなります。ですから、この仕事はさほど簡単ではありません。現在常人社会において目立つことや、常人を超えるようなことを現すことなく、このように普通に行なわれています。往々にして、私たちは修煉の中で何か天地を揺るがすようなすごいこともなく、皆常人の各種のトラブルの現れの中で私たちの心性を練磨しています。

実は、長春の古くからの学習者は皆知っていることですが、当時法を伝え功を伝え始めた時は、本当に大変でしたが、困難な時期を乗り越えてからやっとこの法を広く伝え、多くの人々に認識してもらうことができたのです。ですから、当初はこれを行う時に、本当に大変でした。しかし、私たちは乗り越えてきました。しかも法はまず長春で広められました。当時、今日のように高く奥深いことを説

いておらず、気功から本当の法を伝えるまでの過渡期のものしか説きませんでした。後になって、徐々にこの法を真に説き明かし、多くの人に認識してもらいました。このことは非常に系統的に行われました。しかし、常人のように、常人社会でその形式を按排しているではありません。私たちは常人社会のような行政の管理方式、またはその他の形式を取りませんでした。見た目は非常に自然ですが、実は浅いところから深いところに向かって行っています。なぜならば、これほど大きな法を伝えることは非常に厳粛なことだからです。

在席の多くは古くからの学習者ですが、この法が伝えだされてから現在に至るまで、皆さん考えてみてください、これほど長い時間の修煉を経て、皆法に対して深い認識を持っています。しかも、多くの人が修煉しており、中には社会の各階層の人々が含まれています。知識があればあるほど、理解が早く進んでいます。これは一般的な気功にはない現象です。なぜこのようなのでしょうか？ 他でもなく私たちの法が本当の正法だからです。これほど長く修煉することを通じて、この法が決して常人社会のいかなる理論とも同じではないと皆さんも分かるようになりました。古今東西の人類の知識を探し尽くしても、見つからないものです。しかし、私たちがまた現在の人間の考えと観念に結び付けているので、できる限り人々に分からせることができます。なぜならば、全ての人に長きにわたって社会で形成した固定観念があるからです。それもその人の職業または携わっている専門と関わっています。例えば、科学研究をしている人もいれば、軍事に携わっている人もおり、政治に従事している人、商売をやっている人もいます。などなど。人々は自分の成し遂げた成果に対しても、自分が形成した世界に対する認識に対しても、固定の観念を形成しました。ある人は真理がこのようなものだと思い、他の人は真理があのようなものだと思います。全ての人に固定観念があります。

多くの人々は法を得たばかりの時に、この固定観念に妨げられていたため、皆認識の過程を持つようになりました。もちろん、後になって法を勉強した人は速く進み、何の障碍もないように認識しています。今まで、この一、二年前までの初期段階において、法を得た時、多くの人々は自分の後天的に形成した観念に妨げられていました。実証科学をもって大法を量る人もいれば、唯物弁証法をもってこの法が唯物弁証法に合っているかどうかを量る人もいます。また、ビジネスの中で形成した世界観をもって法を量る人もいますが、つまり異なる階層の人に皆、障碍があります。私はこの障碍を破るために、できるだけ現在の人々の観念と考え方に合わせて法を説きました。同時に、法を説いている時、あなたが法を得ることを妨害している全ての要素も取り除いています。ご存知のように、多くの人

は私の本を読むと、一回目は私が科学を説いていると感じていますが、実はそうではありません。私たちは現在の人々の考え方をを用いて、あなたのその観念を破っており、あなたが認識できるようにしています。私は多くのこのようなことをしました。今日の人類の状態を目にしてこのような按排をしました。それは、法を伝える中であなたが受益し、法を得ることができ、各種の観念に影響されないようにするためです。ですからこの数年間、法を伝える中でより多くの人に法を得させることができました。

在席している煉功点の責任者、古くからの学習者は、皆さん自身がまだ認識できない多くの偉大な仕事を行い、それは本当に偉大な仕事です。常人社会で現れてくると、非常に平凡に見えます。この法が伝えだされた事によって、より多くの人々、社会の各階層の人々がこの法を認識することができるようになりました。もし誰も学んでおらず、修めていないならば、それは意味がありません。しかし、この法は宇宙の真理を明かし、天地開闢以来誰も説いたことのないものです。私たちは道理を説くようなやり方で、人間の理解できる観念をもってあなたの障碍を破るという方法をもって説いており、あなたに真に宇宙の理を認識させています。ですから、この法が伝えだされた当時、人々がこの法を学ぶには既に問題がないと私には分かっていました。しかし、人々が本当に着実に修煉しつづけることができるかどうかは、またある問題とかかわりを持っています。つまり、私たちが本当に着実に修煉する環境を持ち、学習者が法を得て修煉していく中で着実に向上することができるかどうか、という問題です。これは極めて重要なことです。

昨日、長春輔導点の責任者にも話しましたが、皆さんにとって最も最も重要なことは、学習者が妨害されず、安定した環境を作り出すことです。これは皆さんの最大の責任です。在席している皆さんにとっても同じです。皆さんの輔導站、輔導点が妨害されることなく、学習者を率いて修煉することは、皆さんの最大の責任です。もちろん、これらのことは最初、私が行ったのですが、現在皆さんがやっています。なぜならば、皆さんは既に大法の中の一員だからです。私本人もこれほど多くの人に対して、あちこちに行ってこのことをすることができません。全中国に二千あまりの県があり、各県、各都市に多くの煉功点があるため、この私一人が駆け回ることはあり得ません。法が既に伝えだされたので、私たちは法があり、どのように行うべきかを知っており、しかも非常に良く行っています。私たちにいかなる制限も規定もありません。

ご存知のように、釈迦牟尼が法を伝えた時に、弟子が修煉の中で問題を起こさないように、百あまりの戒律を規定しました。その目的は、弟子達がこれらの戒律に従って修め、問題が起こらず、圓滿成就できるようにするためです。しかし、私達は今日、何の規定もありません。なぜないのでしょうか？ 私がいかなる外在的な形式をもって人間を管理したくないからです。どんな外在的な形式、命令または何らかの手段を採っても、人の心を変えることができません。人の心はその人自身で変えるものです。もし、本人が変わりたくなければ、誰もその人を変えることができません。どんな法令や規定も表面を治めることしかできず、根本を治めることができません。なぜならば、人の心が根本から動かず変化していなければ、見られていない時に、その人はやはり自分の観念に基づいて行動します。これは間違いのないことです。人の心が変わり、元に向かって昇華することだけは、極めて重要なことです。このようになってはじめて、最も根本的なところから人々に変化をもたらし、人類を元に向かって昇華させ、修煉者を圓滿成就させることができます。これ以外、いかなる方法もありません。

皆さんはこのことのために、苦を厭わず多くの仕事を行いました。私は常人のように皆さんにお礼を言うことはできません。なぜなら、あなたは修煉者だからです。皆さんは皆自分の仕事を自分の向上と結び付けています。あなたの仕事とあなたの修煉は、決して別々になることはありません。仕事の中でぶつかった厄介なこと、異なる意見及びトラブルの激化は皆、あなたの心性を高める最も良い機会です。あなたにこのような機会を作らなければ、輔導站の責任者は向上することができません。誰もがあなたに従っており、あなたの言いなりになっているのであれば、あなたが皆さんを邪道に導いていても、それに気づくことができないと思います。そうではありませんか？ もちろん、私達はこのようにすることはありません。しかし、あなたは、修煉の中で、仕事の中で向上することができます。つまり、あなたは仕事を修煉と結び付けるべきです。私も感謝の言葉を言いません。なぜならば、皆さんは私の弟子だからです。師父が弟子にお礼を言うことはないのです、私もそれを言いません。(拍手)

私は皆さんとお会いして心より嬉しく思っています。私は一部の学習者と相次いで接触しましたが、皆さんに非常に大きな変化が起き、修煉してまだ日の浅い学習者も大きく変わり、しかもかなり大きく変わった学習者もいます。あっという間に一年あまり経ちましたが、前回長春で説法してから、これほど多くの人にお会いするのは、この数年間でかつてなかったことです。この度故郷に帰ってきたのは、本当に皆さんとお会いしたかったからです。今までずっとあることを心

配していましたが、つまり私がどこかで姿を現したら、多くの学習者がそこに行ってしまうのではないかということです。それなら、その社会に多方面にわたって、負担をかけてしまいます。特にこの大法を学ぶ人があまりに多く、国内国外合わせて、一億に達しています。しかも、人々は法に接してからすぐに、着実に修煉するようになります。ほかのものを練習している人たちのように、今日練習したら、しばらく経ったら止めてしまうということはありません。

しかし、私達のところでは違います。皆さんがここに入ってきたら、私達は皆さんに責任を負い、人々に修煉させ、向上させ、圓滿成就させています。皆さんもこのことを目にすることができます。しかも、私達は社会に責任を持っており、どのような条件の下でも、私達が表したのは皆正しいものです。社会に対しても、個人に対しても、ひいてはあなたの家庭またはあなたの異なる生活環境に対しても、有益なのです。このことは私が多く話さなくても、皆さんは知っています。ですから、この法は社会でこれほど大きな影響力があり、これほど大きな役割を果たしているため、これほど多くの方が学んでいます。私がいざどこかで現れたら、多くの方が追いかけてくるので、各方面に大きな負担をかけてしまいます。「私達のところに来ていただけませんか」と私に聞いた学習者がいますが、私はこのことに答えにくいのです。「行きます」と承諾したら、行かなければならないので、答えに困ってしまいます。承諾してしまえば、この地区の学習者が皆に伝えてしまい、私がまだ行っていない間に、既にたくさんの方がやってきて、このようになるかもしれません。特に人数が多くなると、社会の行政部門が私達に対してまだ認識しておらず、或いはまだ私達を理解していないため、私達は損害を受け、学習者の修煉環境が破壊されることがあります。ですから、このようなことを私はしたくありません。

しかし、今日私が来たのは二つの理由があると思います。一つは、一年あまり会っておらず、しかも故郷だからです。特別な状況だと思ってもいいのです。しかも会っているのは煉功点の責任者です。責任者にだけ会うと皆さんに伝えるしかありません。なぜならば、学習者に会っても、それほど大きな会場がないからです。長春にまだ数万人を収容できる会場がないので、このようにするしかありません。もう一つは、私は基本的に海外に住んでおり、こういう点において、厄介なことを避けたと思います。この二つの理由です。しかし、私がどこにいても、あなたの修煉状況は私には分かっており、全ての人の状況が分かっています。学びさえすれば、修煉さえすれば、私はあなたを見守ります。

皆さんが海賊版の本を買っても問題はありません。これは間違いのないことです。本は白い紙に活字があるだけで、それ自身は何の作用もありません。『轉法輪』にしても、ほかの本にしても、本当に作用しているのは、その背後にある内涵と本当の実質的な原因なのです。これは他の本にないものです。更に、手で書き写したものであろうとも、海賊版の本であらうとも、学びさえすれば、修めさえすれば、自然にその内涵が備わるようになります。佛法無辺だからです。それに現れた威力は非常に大きいものです。しかも、常人の時間と空間の概念のようなものでもなく、まったく違います。ただし、版を植え直した海賊版の本は一切買わないでください。しかも、このようなことがあったら、関連部門に協力して取り調べるべきです。元の本をそのままスキャンして印刷したものなら、大丈夫です。このようなものは内容に間違いはありません。

今日の主な目的は皆さんにお会いすることであり、多くの人も私に会ってみたいと思っているので、今日は高いところに座りましょう。(拍手) 来た以上、ついでに皆さんにいくつかのことについてお話します。一度会うのもなかなか難しいことです。もし在席の皆さんに質問を出す必要があれば、メモをして出してください。皆さんに解答します。ただ、質問を書く時に、簡潔に書いてください。私がこのぐらい先生に会いたかったとか、この法はこれほど素晴らしいとかをまず書いてから、質問を出すようなことをしないでください。このようにしないでください。単刀直入に質問を書いてください。私も速くそれを読みあげ、解答することができ、時間を無駄にすることはありません。

まず二つのことについてお話します。異なる場で説いたことのある問題もありますが、ある地区またはある環境で、その問題の現れが突出しているため、繰り返すになってしまいます。しかし、皆さんにもう一回詳しく話してもよいと思います。

一つ目は、大法の本の文法がなぜ規範どおりのものではないかということについてお話します。このことは知識人、知識教養レベルの高い階層、特に文学または国語に携わっているこのような分野の人々にとって、大きな障碍となっています。どうして規範どおりに、常人の言葉をもって法を説くことができないのでしょうか？ ご存知のように、規範された言葉は定義づけられているもので、「この言葉はこの意味です」という具合です。更に、規範された言葉が限られているため、それほど洪大な法を言い表すことができません。この膨大な宇宙の中で、人類の地球は一粒の塵芥の中の塵芥の中の塵芥とも言えず、それほど小さいのです。

なぜ地球はこれほど大きな法を包容することができるのでしょうか？ 宇宙の法はなぜ人類の言葉に規範され得るのでしょうか？ なぜ人類の規範された言葉に迎合することがあり得るのでしょうか？ これは絶対不可能なことです。

この法はただ人類の言葉を利用しただけです。どのようにこの言葉を利用して法を説くかということに至っては、あなたに分からせれば結構です。他でもなくこの目的なのです。ですから、法を説く時の言葉は規範どおりのものではありません。今日法を伝えるために、私の頭にいかなる固有の観念によって形成したものもありません。

もう一つのことについてお話しします。なぜ大法の中で道家の用語があるのでしょうか？ 宗教界の人が私達を攻撃した時、「佛家のものもあれば、道家のものをも交えて説いており、更に科学についても説いています」と言ったのです。実は、どうして彼らに分かりえるのでしょうか？ 科学にしても、道家にしても、佛家にしても、皆大法の最も低い次元での僅かなものの中の僅かなものです。もちろん、私は現代人に法を説いているため、現在の人々の観念と結びつけて説かなければなりません。私が天上の言葉と用語をもって説いていけば、あなたは聞いても分かりません。或いは多くの現代の新しい言葉を造っても、あなたにはやはり聞いても分かりません。ですから、このように法を説かなければなりません。

どうして道家の言葉があるのでしょうか？ 実は私は他の場で既にこのことについて話したことがあります。この大法は佛家の範疇を遥かに超えています。私は佛家を基点にして宇宙の法を説いたのです。この大法がいくら大きくても、私はその中にいません。あらゆる生命はその中にいます。つまり、いかなる生命もこの法によって切り開かれたのであって、皆さんの生存環境と方式も法によって切り開かれたのです。この大きな大法に覆い被されたところの中、つまり宇宙全体の中は、もちろん佛家だけではありません。当然、佛もあり、道もあり、更に皆さんにまだ知ることのできない他の各種の神、各種の異なる神があります。

これほど大きな宇宙、私はこれほど大きな法を説いており、もちろん中に道家のものがあ、神のものがああります。実は皆さんがまだ気づいていないのですが、中に西洋社会の宗教のものもああります。なぜならば、今日私が対象にしているのは中国人だけではなく、一つの民族だけではなく、多くの民族を対象にしているからです。しかも、法からずれた全ての物質と生命を最も原始的な、最初の最も良い段階に帰さなければならぬから、このようにしたのです。つまり、私は佛

法を説いていますが、実質上私は佛の基点に立って宇宙の法を説いています。私が成就したのは佛の形象だから、それが佛法だと言っても間違いではありません。

私は皆さんに責任を負わなければならない、皆さんを全部佛家の法輪世界、またはその他の佛の世界に送り出してはいけません。皆さんの全てが皆、「先生、私はどうしてもあなたの世界に行きたい」ということを考えています。皆さんの考えは間違っていないませんが、皆さんに教えますが、私は皆さんの心しか見ていません。常人の観念で神のことを考え、常人の考えで神を認識するのであれば、永遠に理解することができません。もし、あなたが今日にでも神の考えになるのであれば、観念全体に変化が生じます。もし、昔あなたが自分の世界を持っていたのであれば、或いは異なる次元から法を得に来ているのであれば、またはあなたが道や神だったのであれば、元のあなたのところに戻らなければなりません。私はいつも皆さんに言っていますが、自分の過去が何だったのか、どういう状況だったのか、あなたには分かりません。ひたすら修煉し、この大法に同化すればよいのです。つまり、あなたが佛であっても、道であっても、神であっても、この宇宙大法に同化してから、はじめて元に戻ることができます。未来のことに対して、あなたはきっと申し分がないと私は言い切ることができます。あなたが申し分ないほど満足するだけでなく、あなたの得たものは、思いもよらないものに違いありません。私はあなたに更に良い、元より更に良い環境を与えます。全ては皆さんが思いもよらないことです。(拍手) つまり、大法の中にどうして他の宗教の中の用語があるのかということをお話しました。他でもなくこの意味です。

宗教に言及しましたが、私はそれが人間の認識であり、人間が付けた名だと思えます。宗教の概念も非常に曖昧で、ある決まった定義はありません。釈迦牟尼は法を伝えた時に、自分が宗教だと言いませんでした。イエスも自分がキリスト教だと言ったことがなく、聖母マリアも自分がカトリック教だと言わなかったのです。実は彼らには自分なりの呼び方があり、弟子に対して自分なりの呼び方があったのです。しかし、それは決して人間が言ったその概念ではありません。神が宗教を認めていないため、現在宗教の中で修めても成就できない人がたくさんいます。実はこのような人は必ずしも本当に修煉したいとは限りません。ただそのような心があって、いいと思っており、守っているのは宗教そのものであり、佛ではありません。佛や神は人の心しか見ていません。宗教の中において本当に修煉することができなければ、何にもなりません。あなたが宗教に帰依した、または出家したとしか言えず、佛の弟子になったとは言えません。佛は人の心しか見ておらず、出家は形式に過ぎず、佛に向かいたいという心を表しているだけです。

本質的な改変だけが、本当に佛に帰依したことになります。心が出家しておらず、帰依していなければ、何の役にも立ちません。もちろん、私の心が非常に敬虔だとあなたは言うかもしれませんが。あなたの敬虔というものは、宗教及びあなたに現れたその有為の形式に対するものであり、修めることに対してではなく、出家しないのと何の違いもありません。

つまりこの法があまりに大きく、宇宙の中の全ての修煉方法と全ての生命を含んでいるということをお話しました。私が使った道家の用語はまだ少ないほうです。なぜならば、地球上に少しばかりの正教が残り伝わってきたため、この数種類について話すことしかできません。実は修煉方法は宇宙の中にたくさんありますが、人類社会には数種類しかありません。

私はただ皆さんにお会いしたかっただけで、たくさんのお話を話すつもりはありません。修煉の中のことに至っては、私に会ったにしても、会わなかったにしても、同様に修めることができ、これは問題のないことです。しかし、皆さんがいつも私に会いたいと思っているので、これを機会に皆さんに会いに来ました。これ以上皆さんにお話するつもりはなく、会うこともなかなか難しいからです。先ほど皆さんに質問を出しても良いと言いましたので、どうぞ出してください。解答しなければならぬものがあれば、解答します。

弟子：『根を掘る』と『誰のために存在するのか』という経文について、私達の煉功点に二通りの理解があります。一つは、大法を守るために行うことは正しいことだということですが、もう一つは、修煉して上に到達することは最大に法を守ることだということなのです。

師：皆さんに教えますが、私がこの二つの経文を書いてから、修煉者の心でそれを読むことができる人がいますが、一部の人は常人の心でそれを読んでいます。自分が間違っても認めない人がいます。私の書いたものを読んでも、それを認めたくなく、常人の心をもって自分のために弁解しています。また、議論している時、双方とも法の中で私の言葉を探して言い争い合っています。これは皆、常人の心で断片的に大法を理解しています。皆法の角度から認識していません。角度を変えて認識すれば、このようにならないのです。ぶつかった如何なるトラブルも自分の心と関係しています。『根を掘る』を書いたのは、北京であの出来事があって、多くの人々がそれを知っているからです。私はあのこと事態の云々について話したくはありません。

弟子：釈迦牟尼は第六層の宇宙から来たのですが、どうして彼に小宇宙の果てが見えなかったのでしょうか？

師：これは皆さんが常人の論理や考えで認識できるようなことではありません。実は、釈迦牟尼は第六層の宇宙から来たのではなく、非常に高い境地から来たのです。彼はそれほど次元の高いものを持ってこの世に下りてくるのはあり得ないことです。しかも、当時の人間に限られた法理しか受け入れることができなかつたため、釈迦牟尼は羅漢法を伝え、現在に残ったのもそれだけです。しかし、彼は当時、確かに多くの更に次元の高い法理をも説きましたが、今日まで伝わってきませんでした。四十数年の間に、確かに四大（注：四大とは「地、火、水、風」）以内の法を説きました。これらのことは皆さんの修煉とは関係のないことです。皆さんに教えますが、どこから来た人であっても、在席の中にも高い次元から来た人がいますが、あなたに何も見えず、人類以外のものでさえあなたには見えません。修煉中の人、または法を伝える過程で高い次元から来た人が地球にいられるようにするため、このようにしなければならず、必ず制限されています。皆さんに教えますが、もし私に常人の考えがなければ、私もここにいられません。このことをする前に常人の考えを集め合わせ、人間の中で皆さんにこのように説法することができるように維持しています。多くのことは、皆さんが理解できるようなことではありません。

弟子：言葉の障害は煉功点の責任者としての仕事に影響するのでしょうか？

師：言葉の障害がひどいものもあれば、弱いものもあります。しゃべっているときに、少しどもっていても、または舌にちょっとした障害があり、或いは表現能力が少し劣っていても、影響はありません。しかし、今日大法を学ぶ人がますます多くなるにつれ、だんだん社会の高い階層の人と接触するようになったため、私達が皆話しのくどい人なら、良くないと思います。多くの知識教養レベルの高い人は、法を学んで初めての頃、確かに影響されるかもしれません。ですから、責任者にもし障害があれば、法に対する認識が深く、知識教養レベルの高い人（知識教養レベルの高い人は、すなわち法に対する認識の深い人とは限りません）とペアになって仕事することを私は提案したいと思います。法に対して高い認識を持ち、法を勉強して少なくとも一定の期間を経て、いくつかの関を乗り越えたことがあり、もう逆戻りしない人であれば、その責任者の補助になればよいのです。またはその責任者に換わってもよいのです。責任者になるのもこの仕事をするためになったのではなく、皆修煉のためです。もし、私が責任者でなければならず、換わってはいけないと言う人がいれば、早かれ遅かれこの心を取り除かなければ

ならず、いつかこのようなことにぶつかると思います。あなたは責任者になるために来たのではなく、修煉のために来たのです。くれぐれもこれを覚えてください。言葉に少し障害があっても問題はないと思います。

弟子：修煉して元に戻ったら、元の次元を突破することができるのでしょうか？

師：あなたはやはり人間の考えで神のことを考えています。将来分かるようになったときに、今日出したこの質問に赤面するでしょう。それらのことに構わないでください。大法が皆さんのために最も素晴らしい全てを切り開いたため、ひたすら修煉すればよいのです。実は、私達の多くが気にかけているのは家に帰ることであり、家から遠く離れていることではありません。これらのことは神にとって、皆さんの持っている概念とまったく異なっており、皆さんのような考えではありません。

弟子：法輪世界以外に、更に高い次元にまだどのぐらいの世界があるのでしょうか？

師：あなたは考えを修煉に置くべきです！ あなたに教えますが、数え切れないほど多いのです。自分の体にどのぐらいの分子があるかを調べることができますか？ 三界内の体はみな、人身と呼ばれています。人間の体の場合、ミクロ的な粒子によって更に大きな一層の粒子を構成し、そして、更に大きな一層の粒子は更に更に大きな一層の粒子を構成しており、言われている人身は三界内での総称です。三界内だけにどのぐらいの粒子があるかはあなたも分かりません！ 計り知れないほどあります。どこまで修煉したとしても、在席のあなたは宇宙にどれだけの世界があるかを知りません。しかも、これは絶対的なことです。

弟子：煉功して数年経ちましたが、座禅する時にいつも寝てしまいます。この問題に悩まされています。

師：苦を嘗めることを皆さんは知っていますが、寝てしまうということもあなたを邪魔しており、あなたに修煉させないということだとは思わなかったのでしょうか？ これもあなたの意志が作用すべき時ではありませんか？ 目を開けたままでも寝てしまうのでしょうか？！ どうしても駄目なら、目を開けて煉功してください。この関を乗り越えなければなりません。

弟子：子供をしつけても言うことを聞かないのですが、これ以上言うことを聞かなければ、好きにさせます。これは正しいのでしょうか？

師：完全に正しくはありません。子供を放任することは親の犯罪です。今日の人類社会はここまで変わってしまいましたが、皆さん代々の人と全く関係ないとは言えません。皆さんに教えますが、子供をしつけなければなりません。アメリカという社会では、法律に縛られて子供をしつけることができなくなり、しついたら法律違反したかのようです。ですから、子供をそのまま放任しています。このような子供は礼儀はおろか、最も基本的な人間としてのものさえ知らないのです。将来どのような人を育てるのでしょうか？ しかし、皆さんに教えますが、中国では必ず子供をしつけ教育しなければならず、放任してはいけない、という伝統があります。叩いても叱ってもいいのですが、修煉者が怒ってはいけない、ということを行っています。子供をしつけてもよいのですが、あなたは気分のいい時に子供を叩いても、笑いながら子供を叩いても、彼は痛く感じます。その目的は、子供に一つの教訓を与え、悪事を働かないようにするためです。子供を教育するのは間違いではありません。考えてみてください、これは自我に執着しているのではなく、社会のためにも、未来の人類のためにも良いことをしています。しかし、執着しすぎたら、また他の極端に走るようになります。つまり、子供をしつけることは間違いではありませんが、理性的に行うべきです。

弟子：佛法は真理のために存在しているのではありませんか？

師：出したこの質問は次元の高い話であり、修煉中に何らかの考え方を抱いていることは正しいことです。正確に言えば、佛法は生命にその生存環境を切り開き、人類に命を与えました。このような関係です。生命はその境地の生存方式のために存在するほかありません。もしあなたが大覚者で、下の次元の多くのことを治めることができれば、あなたは更に多くの生命のために存在しているかもしれません。このような関係です。

弟子：『轉法輪』を読むと眠くなりますが・・・。

師：煉功点の責任者がこのような質問を出したのであれば、責任者を辞めて他の人にやらせたほうが良いと思います。自分がまず学んでから、大いに向上してから、責任者になったほうが良いのです。『轉法輪』を読むと眠くなるから、『轉法輪』を一回も読み終えていないかもしれませんが、それなら、どのように輔導の仕事をするのでしょうか？ 輔導しなければなりません。どのように輔導するのでしょうか？ ここで伝えているのは法であり、動作が圓滿成就するための補助的な手段ですが、動作がいくらきれいであっても、法がなければ成就することができません。法は極めて重要なのです。本を読むと眠くなるということは、先ほど話した座禅すると眠くなることと同じ道理です。

弟子：なぜ思想業力がいつも強い人がいるのでしょうか？ しかもしばらく経ったらまた現れてきています。

師：これはよく見られる現象です。皆さんに教えますが、皆さんの修煉が本当に非常によくできているのを私は目にしました。特に古くからの学習者ですが、私は皆さんを見て本当に嬉しく思っています。しかし、皆さんにも同じような問題があり、時々考えによくないものが反映してくることがあり、ひいてはたまに相当よくないものが現れてきます。しかも現れてきたものはますます悪くなることがあります。私は皆さんにこの道理を教えているだけです。私たちが修煉の時、ご存知のように、ミクロから生命の構成からあなたを変えているので、変えられたあなたのその部分つまり、基準に達しており、その部分がすでに人間とは言えません。あなたの人間のこの部分が何かをする時、その部分は一緒になって行なってはいけません。さもなければ、神が悪いことをすることになり、落ちてしまうこととなります。これは絶対に許されないことです。ですから、皆さんは絶えず修煉し、法の基準に達したその部分は絶えず隔離されています。つまり、木の年輪のように、修煉中に一層また一層、外に広がっており、木の皮はあなたの表面です。修煉して良くできた部分の中から外に向かっていくというように修めており、最終的に表面まで修めるのです。修煉してできたその部分は神であり、まだできていない部分は人間なのです。

私はあなたの生命のミクロ的なところから始めており、つまり、あなたの生命の内からあなたを変えています。そうすると、外側のほうは変化が相対的に少ないのです。しかし、修めていけば、自分で自分を律しなければならず、最後までこのようにしなければなりません。しかし、この皮に変化が生じるまで、考えに常人としての考えが反映してきます。時には相当良くないものですが、あなたはそれを抑制することができます。これは自分で自分を律しているという部分が作用しているのです。しかし、以前あなたはそれを抑制することができなかったのです。なぜならば、非常に深い次元までそれが存在しているため、あなたはそれを抑制することができませんでした。現在、考えによくない念が反映してくることに気づいていますが、あなたはそれを抑制することができるので、修煉の中で自分の行為と考えを抑制することができます。これはただ大法の中で修煉する時の状態です。

皆さんが修煉できるように、これに妨害されないようにするため、必ず修煉してよくできた部分を隔離しなければなりません。ただし、あなたが常人の中で修

煉できるようにするため、表面上のものがますます弱くなり、ますます弱くなるほかありません。例えば、あなたが修煉してよくできた部分は既に百層まで達したとすれば、あなたの表面ではただ一つの層だけを変えたのです。つまりこのようなことを言っています。その比例は非常に小さいのであって、その目的はあなたが常人の中で修煉できるようにするためです。もし全部取り除いてしまえば、あなたに如何なる常人の観念と考えもなければ、あなたの表面も常人ではなくなり、常人の中で修煉できなくなります。

皆さんに教えますが、常人の心がない時、相手が心で何を考えているかを知ることができ、各方面もあなたを妨害してきます。人間が何かを考える時、その一つの動作、一つの表情、一つの非常に微妙な現れも皆、目的を持っているのです。しかも、非常によくない考えを持っている人もおり、どのように人を懲らしめるかを考えています。まともでないことまで考えている人がいるので、あなたは这个世界に全くいられなくなります。ここまで乱れてしまいました。皆さんがここで修煉できるようにするため、私達はこのような修煉形式を採り、これは最も速い形式で、修煉してよくできたその部分が動けないようにし、それを隔離してしまいます。絶えず修煉し、絶えず本を読んでおり、認識し、ますます分かるようになれば、あなたの範囲を絶えず拡大しており、つまりあなたの表面に向かって進んできています。表面が全部変わったら、圓滿成就になります。ですから、考えの中にまだ良くない考えがあることを恐れなくてください。ただし、「先生がこのように説いたから、分かった、それが常人の中で修煉できるようにするためのものだから、これからそれを放任してしまおう」と思っははいけません。放任してしまえば、あなたは修煉していないことになります。このような関係です。

弟子：「術類」とは何かについて、お話をいただけないのでしょうか？

師：術類のことですが、異なる宗教に異なる術類があり、異なる修煉形式に異なる術類があり、異なる次元にも異なる術類があります。概括的に言えば、修煉またはその顕現に異なる手法を用いているということです。このようなものです。病気治療や魔除けなども含まれています。あなたはこれを習ってどうするのですか？ あなたが学んだことの中に何でもありますが、あなたに教えることができません。現在最も大事なものは、元に向かって昇華するということです。

弟子：三界がつまり神、人間、鬼という三つの界であると理解してもよろしいのでしょうか？

師：私は既に異なる場で三界についてお話しました。本の中にもあります。三界

とは、欲界、色界、無色界という三つの大きな部分によって組織された範囲です。三界内の生命は勝手に三界の外に出てはいけません。三界の外の生命はいくら有能であっても、勝手に三界内に入ってはいけません。三界の中は人間の全ての物質が存在しているところであって、中にももちろんこの世の人間や神、鬼などがいます。いることはいるのですが、あなたが思っているような概念ではありません。三界は天が定めた範囲であり、三界に落ちた生命は天に戻ることができず、再び三界から出ることもできません。もちろん修煉すれば話が違います。修煉すれば誰でも三界から出られるとは限りません。多くの修煉は出られないのです。ただ地上または三界内の異なる次元にいるしかありません。三界の外の生命も勝手に入ってはいけません。三界はこのようなところであり、非常に特殊なところですよ。神の概念からみれば、ここは最も汚いところですよ。

弟子：法を勉強している時に、いつも眠くなる人がいます。

師：法を勉強する時に寝てしまう、本を読む時に寝てしまう、煉功する時も寝てしまう、この最も初期的なものも乗り越えることができません。それは意志なのです！ ご存知のように、修煉の中で人間を構成しているあらゆる要素もあなたが人間から脱皮することを阻んでいるだけではなく、人間のあらゆる環境を構成しているものまで、あなたが離れていかないように阻んでいます。どんなものをも突破しなければならず、どんな魔難をも乗り越えていかなければなりません。その最大の現れはそれらのものがあなたに苦痛を与えることです。しかし、苦痛に異なる形式があり、眠いのもその一種です。修煉できなくなり、精進できなくなった人はそれが苦だとは知らないのです。あなたが法を得ることができず、それらのものはあなたに法を学ばせていないのに、それが魔難とは感じていません。心が法に置かれておらず、修めたくなければ、話は別です。どうしてそれを抑えないのでしょうか？ 意志を強めましょう。人間は自分が寝てしまわないように自制することで、成佛することができれば、私に言わせれば、それはあまりに易しすぎるのです。この小さな関も乗り越えることができなければ、どうやって修めるのでしょうか？

弟子：修煉の時間が限られています、今から大いに勇猛邁進すれば、先生に随って家に帰ることができるのでしょうか？

師：このことを心配する必要はなく、考える必要もありません。修煉の時間さえあれば修め、勇猛邁進すればよいのです。家に帰ることができるかどうかに至っては、機縁まであって、今日ここに座って少なくとも私に会えたのです。そうではありませんか？ 機会はまだまだあります。(熱烈な拍手) このこと全体がまだ終

わっていないければ、まだ機会があります。時間を大事にしてください。どのように大事にするかということこそ、皆さんが考えるべきことです。

弟子：本体を持っていかない弟子の中に圓滿成就する人がいるのでしょうか？

師：本体を持っていかない弟子の中にももちろん圓滿成就する人がいます。先ほど言いましたが、全部法輪世界に行くことはありません。法輪世界に行く人は体を持っていくのです。この宇宙の中に、昔多くの修煉形式及び異なる天体の天国世界がありましたが、九九・九パーセントの人は体がいらなかったのです。誰でもこの肉体が素晴らしいものだと思っているわけではなく、多くの天国の場合、体を持って帰ってくることを許さないのです。それを持って帰ってしまえば、その法を破壊することになり、宇宙大法の中から理解した、悟ったあなたの次元の法を破壊することになります。まさに釈迦牟尼が説いた「戒、定、慧」のように、それも宇宙大法から現れており、彼が悟り、独自で成した戒、定、慧という体系です。全てが肉体を持っていくというわけではなく、法輪世界に行く者だけは持っていくます。

もう一つですが、肉体を持っていきたいと言う人がいます。実はそれも常人の考えに過ぎず、常人の死を恐れる観念を持っており、「これで全部持って行ったから、死ななくても大丈夫になりました。なんとよいことでしょう」と思っています。体を持って行っても、持って行かなくても、最終的にあなたが圓滿成就する時の壮絶な光景を見させます。(熱烈な拍手) 大法がこのことを終えた時に、如何なる宗教の全盛期もそれと比べられないのです。しかし、ただこれを聞いて喜んでばかりではいけません。あなたは圓滿成就するまで修煉しなければなりません。

弟子：座禅の時、両足を組めないのですが、これは心性の次元と関わっているのでしょうか？ 圓滿成就できるのでしょうか？

師：多くの人が片足さえ組めなかったが、最後には両足を組めるようになったと私は知っています。しかし、今日帰ってから、すぐ組めるようにならなければいけないと言っているではありません。努力して練習すればよいのです。しかし、この面の業力が少し多いかもしれませんが、全部滅せられるのです。この世界に修煉より厳粛なことはありません。金儲けのために、ほかのこのために、大きな苦を嘗めることができるのに、どうして自分の修煉のために苦を嘗めることができないのでしょうか？ 体に業力が満ちた一人の人が、成佛しようとしており、

圓滿成就するまで修煉しようとしています、これより厳肅なことはあるのでしょうか？ このような心でこのことに対処しているのでしょうか？ この問題ではありませんか？ 修煉の中でどのように到達することについて、すぐに到達しなければならないと言っているのではありません。ゆっくり練習すればよいのですが、これは問題ではありません。

弟子：「根を掘る」という経文に対して、観念の根を掘ると言っている学習者がいます。「誰のために存在するのか」という経文に対して、法のために存在すると言っている学習者がいます。これは正しいのでしょうか？

師：文字の詮索をしないでください。私が皆さんに分かってもらいたいのは、中の内涵は皆さんが修煉して認識できるものです。表面の字の意味を追いかけないでください。先ほどまで話していましたが、この本にもその背後の内涵がなければ、他の本と何の違いもなく、紙に活字があるだけです。その中に法があるから、心を放下して如何なる観念も抱かずに読んでいけば、認識したものの多さに関わらず、全ては正しいのです。如何なる放下できない観念をも抱いており、または自分のために自分の間違いを隠すための口実と根拠を探しているのであれば、このような前提の下で読んでいけば、何も見出すことができません。如何なる有為の心をも放下して読んでいけば、何でも理解でき、しかも理解した量の多さにもずれはありません。放下できない如何なる心をも抱いていけば、何も読み取ることができません。その字の詮索をして、議論してしまうほかなりません。心を静めて読めば、あなたに分からせるべき内容はきっとあなたに分からせるのです。

最近、ある時期において、私は何かを書く時に明白に書かず、わざと明白に書かなかったのです。皆さんの修煉にこれ以上障碍をもたらしたくないからです。私が明白に説けば説くほど、皆さんがぶつかる厄介なこと、障碍は大きくなります。ですから、一部のことは皆さんに悟らせるためのものです。私が明白に説いたから、皆さんの修煉の道のが平坦になるということは決してありません。何かを悟るということに難が小さくなったら、ぶつかって乗り越えない関はかえって大きくなります。たくさん聞いたから良いことだと思わないでください。実は法は既に完璧に皆さんに残しましたが、皆さんがどのような心を抱いて修めるかにかかっているだけです。

弟子：どのようにしたら、輔導站を本当の修煉環境にすることができるのでしょうか？

師：これに関して、特別な規定はありません。私達は如何なる規定や制限もあり

ません。ただし、輔導站として、私が書いた短文（皆さんが経文と呼んでいるもの）の中に責任者の素質に関する考え方を書いてありますので、それを参考にして読んでみてもいいと思います。あなたの輔導站の環境を良くし、ある基準に達してほしくても、学習者が付いてこれなくてははいけません。しかも何かの規定や制限をもって学習者を縛ることもできません。表面の制約は人の心を縛ることができず、それは見せかけのものです。毎日新しい学習者が入ってきているので、全体の境地は永遠に神の状態に達することはできません。輔導站ではいつも人間が修めています、それはまた人間とは違います。なぜならば、修煉してよくできた部分、神になった部分はすでに隔離されたからです。ですから、皆さんの仕事は非常に難しいのであって、直面している人心は複雑なものです。きっとそうです。だからこそ、皆さんは修煉することができます。法に従って行い、問題が現れたら、まず自分を探し、それから問題の原因を見ることができれば、きっと良くなると思います。

弟子：どのようにして、感性から理性に昇華することができるのでしょうか？

師：これに如何なる常人の中の表現形式もなく、如何なる理論を学んでいる時とも違います。理性的な認識に昇華したとき、それが知らないうちに分かったとあなたは気づきます。しかし、すぐにまた分からなくなります。あなたが分かったその部分は既に基準に達しており、あなたが既に分かったため隔離されたので、すぐにまた分からなくなりました。ですから、この法はいつも勉強しなければならず、ずっと勉強しなければなりません。法を暗記できる人もいますが、非常にすらすらと暗記できたのに、しばらく経ったら、なぜまた忘れたのでしょうか？すらすらと暗記できたその部分は既に修煉を終え、隔離され、残ったのはまだ分かっていない部分なので、引き続き本を読まなければいけません。

弟子：中国語の良くできない学習者は、必ず中国語版の『轉法輪』を読まなければならない、それではじめて向上することができるのでしょうか？

師：これは問題ではありません。今既に多くの言語に訳された本があります。もし中国語を勉強しなければ、向上することができないということに限ってしまえば、英語や、イタリア語、ロシア語、韓国語に訳す必要もなくなります。つまり、他の言語に訳された本を読んでも、同様に向上することができ、圓滿成就することができます。しかも一心に読んでいれば、同様に少しのずれもなく、何の違いもありません。同様に圓滿成就することができます。翻訳したのは字面としての言葉だけであって、作用しているのはその背後にある内涵です。

弟子：修煉して圓滿成就したいと心で思っていれば、それは執着とは言えますか？

師：修煉して圓滿成就になりたいと思っているのは、執着とは言えません。これはあなたの最も良い本性が現れてきたのです。毎日毎日圓滿成就したいと考えており、何をやっている時でも、圓滿成就したいと考えていれば、それは執着だと思えます。この願望があれば十分です。後は修めれば良いのです！ 頭にいつも圓滿成就のことを考えていれば、あなたの修煉のためのものをどのくらい使ってしまったのでしょうか？ それはまだ執着ではありませんか？

弟子：「時間との対話」という経文ですが、時間に対して執着している学習者がおり、どのようにこの傾向に対処すべきでしょうか？

師：先ほど出されたこれらの質問から見ると、一部の学習者はもし神仙のような人が見えて、その人が彼を連れて修煉しに行こうとすれば、本当について行くかもしれない。これは危ないではありませんか？ これは小さい問題なのでしょうか？ あなたに教えますが、天体の中の如何なる膨大な物質も神です。人類はそれが一種の概念だと思っています。日が昇ってきて、日が暮れたり、夜が明けたりしますが、それは時計が動いているからだと思ってしまう、物質に変化が起きていますが、果物が天気の暑い時に腐ってしまい、食べなければご飯がすえてしまい、作物が熟成しますが、それは四季の存在によることであり、全てが時間の現れだと思ってしまう。それが一種の概念だと思っています。実は皆さんに教えますが、この全てがこのようになったのは、時間自身が制御しているのであって、彼は神です。日の昇りと沈み、地球が太陽をめぐる運行する時の速度は皆、時間によってもたらされたのです。しかし、時間はまた極めて複雑なものです。異なる空間に異なる時間があり、更に大きな環境にその環境の時間があり、更に大きな環境の中に独立している各種の異なる小さい時間があり、つまりそれは極めて複雑な要素なのです。通常、私達はそれを時空と呼んでおり、異なる空間に異なる時間概念があります。

現在の人類と科学者が言っている星から私達のところまで十五万光年離れているということですが、私はただ人間の思惟概念を用いて、皆さんにあることを明白に説いています。実は、この言い方まで間違っています。異なる星の周りにそれ自身の場があり、それ自身の時間があるのです。異なる星から地球までの距離、及び地球空間までの距離においても、異なる環境が存在しています。異なる環境の時間にも差異があります。地球とその他の私達に見える星が存在している空間では、現在の速度で計算すれば、完全に間違っています。ある星からもう一つの

星を通過するときの速度は一定ではなく、異なる範囲に異なる時間の場があり、それを時空と呼ぶのです。最初発射した速度は相当速いものですが、「シャー」と地球に近づけば近づくほど、ますます遅くなり、このような状況なのです。異なる空間場に入った時、速くなったり遅くなったり、速くなったり遅くなったりすることがあります。現在の科学は多くのことを認識することができません。時間は多くのことを支配していますが、それは神ではありませんか？

弟子：法を勉強している時、責任者または学習者が関係のない話をする勉強会があります。

師：法を勉強する時には法の勉強に専念すべきで、この法について議論すべきではありません。それなら、学習者が法を定義づけることになってしまいます。この法をもとに、自分の足りないところを話すことができます。または、私がこの場合こうすべきだと悟ったというようなことを話してもよいのです。しかし、このようなこともあまり回数を多くしないほうがよいと思います。最も皆さんにしてもらいたいのは、『轉法輪』でもよいし、如何なる大法の本でもよいのですが、それをいつも通読することです。通読して、中に知らない字があれば、字面からその字の意味を解釈することができます。その背後の内涵に至っては、あなたに解釈することができません。誰でも自分の認識を持っており、この人はこのように、あの人はあのよう認識しているので、お互いに衝突してしまいます。くれぐれもこのようなことをしないでください。

私が書いたものには往々にして、非常に大きな次元、大きな範囲での内涵が含まれています。ですから、あなたに明白に説明できるものではありません。あなたは自分が認識したことを明白に説明することができますが、他の人はそれに同意しないかもしれません。他の人は自分のいる次元で認識したことを明白に説明することができますが、あなたはそれに同意しないかもしれません。人それぞれに自分の異なる認識がありますが、それは次元が違うからです。心を静めて如何なる観念を抱かずに読んでいけば、勉強していけば、理解できていないのではないかと思っても、その理解に決して間違いはありません。理解した量の多さ、分かったことの多さは、実はそれもそうあるべきなのです。新しい学習者にいきなり大法の全てのことを分からせるのも、現実味のない話です。

弟子：「誰のために存在するのか」という経文ですが、宇宙真理のために存在するのでしょうか、それとも先天の純真のために存在するのでしょうか？

師：また私と字面の詮索をしています。あなたに教えますが、あなたは自分のた

めに存在しなければなりません！（拍手） 修めたくなく、圓滿成就したくなければ、誰かのために存在していても何の意味があるのでしょうか？ あなたの修煉、あなたの圓滿成就は、あなたという人を解脱させているのではありませんか？ 実は私がこの話をしたのは、修煉の中で自分を固め、何の影響も受けないようにとあなたに教えています。これは自分自身のために責任を負うということではありませんか？ あなたは自分のために責任を負わなければなりません！ あなたを妨害している人に動かされ、その人のために存在しているということがないようにしなければなりません。とりもなおさずこの意味です。

弟子：煉功点で動功を練習している時、つまり先生の動功のテープを流している時、座禅をする人がいますが、大丈夫でしょうか？

師：一緒に煉功したほうが最も良いと思います。集団で一緒に煉功しているのであれば、一緒に煉功したほうが最も良いのです。どうしても自分でやりたい、動功を既にやったので、今座禅しかやりたくないと思っていれば、必ずしもいけないことでもありません。このようにしなければならぬと厳しく規定したわけでもありません。ただし、一緒に煉功している以上、皆と一緒にやったほうが最も良いと思います。見てみれば分かりますが、一挙一動がそろっていればいるほど、その場が強くなり、力量が強いです。あなたの手は軽やかに動かされています。

弟子：法を勉強する時に、朗読と黙読の効果は同じなののでしょうか？

師：大きな区別はありません。ただ、人それぞれ違う習慣を持っています。声を出して読んでいけば、覚えられないと感じる人もいれば、声を出したほうがしっかり覚えられると感じる人もいます。これは習慣における差異です。自分の状況に従って、どのようにしても構いません。

弟子：通読というのは皆一緒に大声で読むことだと思っている人がいますが、それが全てではないのではないのでしょうか？

師：通読するかどうかは、イコール大声で読むということではありません。通読も小さい声で読むことでもなく、黙読することでもありません。習慣的なやり方に従えば良いのです。皆さんの習慣に従って読んでください。

弟子：佛の体の最も粗い表面の粒子は原子ですか？

師：私は人類の言葉を借りて法を説いていますが、それが必ず私達が言っているこの原子のことなののでしょうか？ 違います。佛がほしいのは、私達のこの空間にある如何なる物質の実体の表面物質ではなく、他の空間での同等な物質なので

す。それは更に威力が大きいものです。

弟子：人が死んだら、この最も大きな分子成分がなくなってしまうのですが、他の空間での体はまだ分子によって構成されており、ただ最大の分子ではないということでしょうか？

師：人間が三界内に輪廻転生しているからです。三界内の全ての体は皆、人身と呼ばれています。三界内の全ての分子は皆、分子と呼ばれています。ただ粒子の大きさが違うので、異なる空間を構成しました。しかし、全てこのような状況ではありません。

弟子：佛がいれば魔もいるのですが、極めて高い次元にもいるのでしょうか？

師：極めて高い次元に魔はいません。しかし異なる生命に相対性が存在しているということはありません。この宇宙は皆さんが想像できないほど大きく、皆さんが人間の考えで想像できるようなものではありません。

弟子：嫉妬心を取り除くには、内気な性格を変える必要があるのでしょうか？

師：内気というのは人の性格の問題です。嫉妬心は性格と直接関係していません。内気で、口数が少ないのですが、他人を嫉妬しない人もたくさんいるではありませんか？

弟子：学習者の修煉、法を広めること、法の勉強に影響していないという状況の下でも、何の活動も行わないのは、恐れているのではありませんか？

師：学習者が皆、着実に修煉することができれば、これは最も良いことです。しかし、時に集団で何かの活動を行い、または集団で煉功をし、法会を開くことも、それは皆さんの修煉の中での按排の一部です。根本から大法の修煉環境が損失を蒙らないようにするのは間違いではありませんが、もし心の中で考えているのが恐れることであれば、それは心性に問題があります。

弟子：片方の腕しかない人が煉功点で煉功するのは、大法に影響するのでしょうか？

師：影響はありません。関係はありません。

弟子：同僚達は皆学位を取ることに熱中していますが、たくさんの時間が

取られるので、私は修士に進学したくありません。

師：私が思うには、あなたのこの考えはちょっと極端に走っています。なぜならば、最大限に常人に合わせながら修煉するようと私は皆さんに教えたからです。あなたの学位にしても、注いだ努力にしても、法を認識することに有益かもしれません。将来あなたが法を広め、法を認識することにも有益かもしれません。これはあなた個人の将来の生活にも関係することです。私達の修煉がまだ終わっていないければ、最大限に常人に合わせて修煉しなければならず、それはあなたの間違いではありません。実は、あなたの修士への進学、学位の取得などは、決して法を勉強することで影響されることはありません。あなたが修士の勉強をしたから、法の勉強に影響するようなことも決してありません。このことは、あなたがいかにこの関係を扱うかにかかっています。問題はありません。多くの人はこのように行い、また多くの学生もこのように行いました。実は、知識レベルの高い人は速く法を理解することができ、考えがとてもオープンです。なぜならば、私は現代人の考えと結びつけて法を説いているからです。知識レベルの少し低い人は確かに違いがあると私は気づきました。もし、皆修士に進学しなくなったら、法輪大法が常人社会の人材を無駄にしていると言われかねません。あなたも大法に損失を与えたくないでしょう。そうではありませんか？ 皆このようにしないのは、様々な原因があるからです。私に教えられた通りに行えば、大丈夫です。圓滿成就していない限り、やるべきことを行ってください。

弟子：「時間との対話」の中でおっしゃった更にミクロ的な物質とは何でしょうか？

師：私が指しているのは、あなたが今まだ知ってはいけないもので、皆異なる更に大きな神です。この宇宙はあまりに龐大なのです。龐大な物質に対して、人間の概念、思惟でそれを言い表すことはできません。人間の言葉を使い尽くしても言い表すことができません。修煉して圓滿成就した時でも、あなたの次元を超えた如何なることをも知ることができません。あなたが悟り得た果位の大きさはあなたの智慧の大きさです。これはあなたが修煉によって得たものであり、次元によって決められることです。

弟子：法輪佛法を修煉していませんが、普段心性の良い人は、将来どうなるのでしょうか？

師：六道輪廻の中で引き続き輪廻転生します。他に何があるのでしょうか？ 心性がいくら良くても、それは常人の基準と比較しているではありませんか？ 法の基準と比べてみれば、良いとは限りません。

弟子：天目にときに良いものや良くないものが見え、法の勉強と煉功に参加できません。この関を乗り越えることができず、非常に苦しいのです。

師：何かが見えたら、念を動かさず、それが良いものか悪いものか、考えもしないでください。やはりあなた自身の念が動いてしまったのです。見えたら見えたで、何も考えずに、それについて行かないでください。映画を見ている時と同じようであれば、あなたの煉功に影響するのでしょうか？ そんなことはないと思います。あなたの煉功に影響してしまったのはあなたの心が動いたからです。良いものだと判断すれば、それについてしまいますが、悪いものだと思えば、それについていけないのです。どんなものについて行っても、皆良くないのです。いくら良いものでも、ついて行ってしまえばそれも良くありません。誰もあなたを圓滿成就にまで導くことはできません。皆さんに教えますが、この世の中に人を済度している神は一人もいません。これほど大きな法がここで伝えられているため、妨害するものが誰であっても、皆落ちてしまいます。妨害してしまえば、宇宙大法を妨害することになり、いくら高い神、佛、道であっても、落ちてしまいます。

人類はとっくに変異してしまい、現在の人類の行為、人類の科学、人類の全ては人間が持つべきではないものです。この法が伝わっているのでなければ、今日の人間はとっくに存在しなくなっただけかもしれません。宇宙に成住壊があります。宇宙に劫難があると認めたくなくても、宇宙の中の星は、誰でも見えたのですが、現在の科学者に既に多くの星が爆発したのが見えました。それなら、地球が爆発してしまうようなことはあり得ないのでしょうか？ 他の星だけが爆発するのでしょうか？ もちろんこのようなことは地球ではもう絶対起こりえないのです。私はこの道理を説いただけです。

弟子：『アメリカでの説法』と『シドニーでの説法』の中で、原子から分子までの配列が二十万個と、二百万個であると説かれましたが、どちらが正しいのでしょうか？

師：どちらでも正しいのであって、二千万と言っても間違いではありません。人間は固定した考えで物事を見るきらいがあります。分子に多くの層があります。現代科学が大まかなことしか認識していないため、私は現代科学の話の借りて説いているのです。しかし、あなたはとことんまで突き止めようとしています、二十万個と思えばよいのです。しかしそれは正確な数字ではなく、分子だけにも多くの層があり、大きさの異なる粒子は同じものではありません。

弟子：佛像を供えることですが、それが師父の法身だと言う人もいれば、佛像本人の法身だと言う人もいます。

師：先ほど既に説きましたが、ここで人を済度している佛は一人もいません。何がいるのでしょうか？ 佛像からもととの佛が見える場合がありますが、それは極めてまれなケースです。しかも古い廟だけに佛像にそれが入っているのです。なぜならば、私がこのことを行う時、まず上の空間で行ってから、戻ってきて人類のこの空間、三界で行うことにしたからです。それで、このことを行う時に、この空間に閉じ込められたものがここから出られなくなりました。閉じ込められていないものはもういません。しかし、閉じ込められても、どんなことにも構わず、何もしないのです。あなたの修煉が良くできたのを見て、あなたに話し掛けてくることはありますが、あなたのことに構うようなことはしません。

弟子：天壇大佛に師父の法身があり、それが師父であると言っている人がいます。

師：私は初めて香港に行った時、佛像に佛がなく、全く開眼されていないことに気づきました。かえって、良くないものが取り憑いていたので、私はそれらを片付けました。私が片付けたので、私の法身はそれを面倒見ることになりました。このようなことです。それほど多くの人が拜んでいますが、それらの良くないものを拜んでいてはいけないのではありませんか？ しかもそれが佛の形象をしているので、私は面倒を見ることにしました。

弟子：世間法から出た後の体に病業が現れてくることはあるのでしょうか？

師：ありません。しかし、今日の修煉者の体の内部がかなり乱れており、それを調整しています。如何なる正法の修煉方法でも、三界から出た後、体に再び病業が現れるという状態はもうなく、絶対ないのです。しかし、その人はまだ自分の果位に到達していないため、常人社会で人と人とのトラブル、心性の軋轢がまだあります。圓滿成就するまで続くのです。

弟子：北京で起きたあの事件のような場合、確固として着実に修煉している人はどうなのでしょう？

師：確固として着実に修煉している人がどうなのでしょう？ この話はどういう意味でしょうか？ 皆まだ分かっていないようですね。つまり、あなたは参与しておらず、自分は「確固として着実に修煉していました」、この意味ではありません。

んか？ 話の中に自分が圓滿成就の機会を失ったことに理由と根拠を探している意味があります。私のところにまでいい訳を求め、私のところまで来たのですか？ 道理は既に私がこれ以上説くことがないほど明白に説かれました。毎回の出来事、毎回このような大きな出来事が現れる時は、皆学習者が圓滿成就に向かっている最も素晴らしい一歩を踏み出すことができるかどうかを試すための最高の機会です。その一歩を踏み出すことのできる人がいますが、自分が着実に修煉していると思って動かない人もいます。圓滿成就になっても、あなたは動きませんが、どうなるのでしょうか？ あなたは圓滿成就もしたくないようです。ただ修めています、何のために修めるのでしょうか？ 圓滿成就のためではありませんか？ 実は自分のために言い訳を探しており、自分のもう一つの心のために言い訳を探しています。確固として着実に修煉して動かないのではなく、普段あなたはもし本当にそれほど着実に修煉することができれば、なぜ動かないのでしょうか？

弟子：公園で先生にお会いした時、先生の表情は非常に厳しかったのです。今でもそれが気になっており、お会いすることを恐れています、また非常にお会いしたいという気持ちもあります。

師：私が厳しくなる時は少ないと思います。特にドイツ、フランス、ヨーロッパ法会の時に私はこのような話をしました。即ち、あなたが学びさえすれば、修めさえすれば、どんな過ちを犯したとしても、私はあなたを済度することができます。私は大きな門を開いたと言いましたが、実は私は既に門がなくなるまで開き、ただ人の心を見るだけです。皆さんは考えすぎないようにしてください。私は決して人間と何かの恩讐があることはありません。私は良いと言われても、悪いと言われても、私の心は動かされることはありません。ですから、私は皆さんの心を知ることができます。修めたければ、本当に修めることができれば、私はあなたに対して責任を負います。

弟子：どのように新しい学習者、その一族に精神病の病歴があると言えるのでしょうか？

師：これは病院が結論を出しているのではありませんか？ その行動は正常ではなく、頭がはつきりしておらず、自分が誰なのかも分かりません。この法は人間に与えるもので、人間の主元神を済度するのです。自分が誰なのかも分からなければ、私はこの法を誰に与えるのでしょうか？ これが原因で、そういう人を済度することができません。

弟子：法を勉強し煉功する時、考えの中に法に抵抗しているものがありま

す。それは後天的に形成した観念であり、将来にどのような影響があるのでしょうか？

師：将来にどのような影響があると言っていますが、現在既にあなたに影響しているのではありませんか？それが後天的に形成した観念であり、あなたではない、とあなたは既に分かっています。法が良いとあなた自身は思っていますが、どうして考えはそれに抵抗しないのでしょうか？あなたが煉功したい、座禅したいと思っているにも関わらず、そのものはどうしてもあなたが静かにならないようにし、あなたに煉功させないようにしていますが、なぜあなたはそれでもそういうものを認めるのでしょうか？人体の全ての部分は皆あなた自身であり、なぜならば、それは他でもなくあなただからです。あなたは口を開けたいように開けることができ、出したい声を出すことができ、この口はあなたのものなのです。あなたは手を動かしたいように動かすことができ、それはあなたなのです。あなたの四肢は皆このようなのです。それでは、座禅をする時、なぜ考えを静かにしたくてもそれが静かにならないのでしょうか？それがあなたではないからです。これらのものをあなたがもし区別することができず、それを自分だと思ってしまうえば、私はあなたを済度しなくなります。そうではありませんか？この良くないものを自分だと認めてしまえば、あなたを済度することができなくなります。私達が済度するのは人間であり、魔ではなく、このようなものではありません。このようなものは魔ではなく、でたらめなもので、如何なる独立した生命をも構成できません。それはあなたの考えに付着して作用していますが、私達はそれを何かのものだと認め、佛になるまで済度することができるのでしょうか？これはあり得ないことです。修煉の過程でそれを取り除いてしまい、今後に対して影響はありません。

弟子：先生の「穹」という経文に句読点一つもありませんが、中の内涵はどういったものなのでしょうか？

師：私は古文で文章を書く時に、皆句読点がないようです。穹、「蒼穹」はつまり宇宙の意味です。私が説いた宇宙が皆さんの概念の中である範囲になった時、私は言葉を変えて、皆さんの思っている範囲を広めるのです。この他、私は「天体」という言葉も使ったことがありますが、人類の言葉はこれぐらいにとどまっておき、これ以上はもうありません。更に大きくなると、言葉がなく、それを言い表すことはできません。

弟子：修煉の中で恐れる心がありますが、どの次元になったら平然として動かないということになるのでしょうか？

師：あなたのこの恐れる心に大きな問題があると思います。もし本当にそれほど高くまで修煉したら、恐れなくなるはずですが、修煉が良くできればできるほど恐れてしまうということはどうしてあり得るのでしょうか？ 功を学んだばかりの人は元々夜道に恐れており、気が小さかったのですが、功を学んでからすぐ大胆になりました。功を学んだから恐れる心が出てきたと言うならば、自分の問題を探してください。これは決して次元の問題ではありません。恐れているのはあなたではなく、あなた自身さえどうして恐れているのかを知りません。長きにわたって法の中で修煉していますが、心が法に置かれていなければいけません。着実に修煉せず、根本的なもの、人間としての根本的なものが変わらなければ、何も得られず、どんなことでも現れ得るのです。修煉は心性の向上として現れており、時間の長さとしてではありません。

弟子：『大圓滿法』は先生の功を教えるテープと幾つか違いがありますが、どれに準じるのでしょうか？

師：『大圓滿法』と功を教えるテープと違いがあるということですが、動作はみな私が行ったので、みな同じです。言葉に違いがありますが、あなたはその小さなところに気を取られてしまったのですか？ 煉功は大所に着眼すべきで、細かいところを詮索すべきではありません。

弟子：古い学習者と新しい学習者と話が合わず、うまく付き合うことができませんが、それぞれ精進することができるので、別々に煉功点を立てて煉功していいのでしょうか？

師：いけません。古い学習者が話したことは新しい学習者を促すことができます。いつになってもこのような状況です。その古い学習者が本当に良く修煉できたならば、彼は確かに新しい学習者の話を受け入れることができません。なぜならば、新しい学習者が最初の頃、常人の話をよく口にし、常人の理解で法を認識しているから、彼はそれを聞いていられないのです。これは彼のせいではないので、家で煉功するか、または一人で煉功する古い学習者がいますが、私は敢えて反対もしませんでした。しかし、あなたがまだそれほど高く認識することができなければ、これは無理強いすることでもありません。一部の人はこの状況ではありません。受け入れることができるのに、どうしても駄目だと言って、皆さんと一緒に行動しなくなりました。私に言わせれば、それが顕示心です。なぜならば、これは自然にそうなることだからです。

弟子：向こうの空間の物質はみなこの空間から行ったのですが、このこと

を理解することができません。

師：確かにあなたはそれを理解することができません。それもあなたが理解しているこの概念ではありません。ご存知のように、天上の世界に行こうとすれば修煉しなければならず、身にあるよくないものを取り除かなければなりません。この体を持っていこうとすれば、向こうの物体に同化させ、佛体に同化してからはじめて持っていくことができます。それは一種の昇華という関係です。これほど汚い物質を佛の世界に置いてしまえば、それは大変なことになるのではありませんか？ 絶対に許されません。それは昇華した物質です。如何なる物体も昇華の過程を経てから、はじめて向こうの空間に行くことができます。

弟子：神職関係者ということの解釈はどういったものなのでしょうか？

師：神職関係者とは西洋社会の宗教の中の牧師や教主、修道士などを指しています。彼らは皆神職関係者と呼ばれています。東洋人にこのような概念はなく、この言葉もありません。

弟子：法を勉強する時に、座禅している学習者がいますが、これは法の勉強に影響するのでしょうか？

師：座禅の時、座禅をすればよいのです。長く足を組めないと分かっているのに、痛くてたまらず、法をしっかり勉強することができません。法の勉強は極めて重要であり、法の勉強を妨げる如何なる事もしないでください。足を組んでずっと座っていられば、もちろんそれは大変結構です。足を組んで法を聞いて、それはもっと良いことであり、足を組んで法を勉強していいのです。足を組んでいられない人がおり、どうしても組んでいられなくなったら、足を崩せば良いのです。痺れてしまったときになって足を崩すと、ほかの人に触られないようにとばかり考えて、法を聞いても耳に入らなくなります。法を勉強する時、真面目にやるべきです。

弟子：観念は情の中に溶け込んでいるのでしょうか？

師：あなたが思っているこのような概念ではありません。いかなる生命も三界の環境の中に生存していれば、情に浸透されています。このような浸透は人間が水の中につかっているようではなく、それはただ皮膚が水に接触しているだけです。あなたの体全体の細胞の中の全ては、分子という層のものであれば情の中にどっぷりつかっています。

弟子：常人の中で、先に情があったのですか、それとも観念が先にあった

のでしょうか？

師：あなたが生まれてすぐに、情の中にいますが、あなたがまだ生まれていない時も既に情の中にいました。母親のお腹にいる時、既に情の中におり、ただあなたに分かっていないだけですが、お母さんに親しみを持っていました。観念は後天的に形成されたものであり、年齢にしたがって徐々に形成されるものです。四、五歳の子供には観念がなく、彼はいかなる観念をも形成していません。

弟子：輔導站が決めた仕事は要求にしたがって行われるべきです。彼らも修煉中の人だから、法を師として、自分の悟りに基づいて行うべきだと言っている人がいます。

師：皆さんに教えますが、私たちはいかなることを行う時でも、輔導站と力を合わせて行い、自分の思うようにしてはいけません。これは一つです。もう一つ、皆さんに教えますが、輔導站が行ったことはみな、私がない状況下で北京の研究會に報告して許可してもらってから行われたのです。多くの輔導站はたくさんのことをしましたが、みな比較的良く行われました。誤りを犯すのは免れがたいことであり、彼らも修煉をしている人です。この点は皆さんが言うとおりのことです。彼らが運営した活動も彼ら自身の修煉と切り離すことができません。これは私が注意を払っていることであり、自分のやりたいようにやってはいけません。ですから皆さんはこのことに精力を費やさないでください。もし彼らに本当に誤りがあれば、善意をもって指摘していいのです。私が思うには、指摘が正しければ、彼らはきっとそれを受け入れるのです。

皆さんはみな修煉している人です。私はいつもこのようなことを話しています。つまり、もし善の心で、まったく利己的なものがなく、まったく自分のことを考えておらず、完全に相手のためになるようにと想着ていれば、話したことに相手は感涙をするのです。もしあなたが話したことが、その基点が自分のためであり、自分のあれこれが誤解されず相手に弱みを掴まれないようにするために、言葉一つ一つが誰からも批判されないようにし、どのような考えをも持っていれば、頭の中から出てきた言葉に付随した情報は非常に良くないものです。あなたの心が本当に善であり、いかなる自分のものも入っていないければ、言った話は単純で善良なものです。

昔の人の行動は非常に早く、一日百里を歩いてしまいました。馬も一日千里を走りますが、これは嘘ではありません。人間の考えが比較的単一でした。やっていることに集中しており、何かをするときに一本の道に沿って進んで、物事が必

ずよく行われるようにしていました。話した言葉を信用でき、やると言ったら、必ずやります。これが人間です。現在の人間の話は信用できず、何をやっても人から批判されないようにと考えています。昔の人間の頭はその考えが真っ直ぐで一本の道のようなのです。昔は一直線で、速く進むことができます。一方、現在では、皆何をやっても人から批判されないようにと考えています。このことを心配したりあのことを心配したりしているという具合です。その考えは横の方向で曲がりくねった形で頭から出てきています。ですから、頭の反応は非常に速いのですが、行動は非常に遅いのです。しばらく口を動かしてからやっと何かを話しだすという人もいます。ですから、現在の人間の行動は非常に遅いのです。一日二十里を歩けばもう真っ暗になります。人間はこのように発展していけばますます駄目になります。複雑であればあるほど良くありません。これは誰でも知っていることです。

しかし、複雑にならないと、ほかの人にいじめられてしまうのではないかと思う人もいます。しかし、あなたに教えますが、悪い人は自分がした全てに責任を持たなければなりません。これが原因で、人間は皆このように自分を守ろうとしています。そのため、人類社会はここまで押されて、滑落したのです。ですから、全ての人に責任があります。今生では悪いことをしなかったのですが、前世の時にそれをしました。実はあなたの言行は皆現代の潮流と一致しており、つまり流れのままになっているに等しいのです。

弟子：時間が迫っていると思いながら、修煉がよくできておらず、間に合わないのではないかと心配しています。

師：様々な執着がありますね。このように執着する人もいます。三界を出るその日になって、恐れているのであれば、落ちてしまいますので、恐れなくてください。修煉が良くできないのではないかと心配するなんて。この恐れだけで、あなたの修煉が成就できなくなるかもしれません。心を放下してひたすら修煉し、どんなことにも気にしないでください。法まで得たのに、また何を恐れるのでしょうか？ 昔、「朝に道を聞かば、夕べに死なすとも可なり」という言葉があります。誰もこの言葉の本当の意味合いを理解していません。「朝に道を聞かば、夕べに死なすとも可なり」とはどういう意味なのでしょう？ 朝に道を聞いたから、夜には死んでしまうということなのでしょう？ この意味ではありません。朝に道を得たから、夜に死んでも恐れません。これはこの言葉の本当の意味合いです。皆さん考えてみてください、道を得たということは誰が道を得たのでしょうか？ 自分が道を得たのです。あなたの頭に入ったのは法ではありませんか？ あなた

の頭に入ったのは法なのです！ あなたの頭に入れたこの法はあなたの考えに溶け込んでおり、これは間違いのないことです。でなければ、あなたはそれを覚えることができません。法を得たこの部分ですが、もしあなたが死んでしまえば、地獄に落ちることがあり得るのでしょうか？ あなたが六道に入ることがあり得るのでしょうか？ この部分は法を得て、法に同化しているのです。今日、あなたはこれほど大きな法まで学んでおり、繰り返し本を読んでいるのに、まだそれらのことを考える必要があるのでしょうか？ ひたすら修煉してください。いかなる恐れも執着であり、いかなる執着も障碍なのです。

弟子：「時間との対話」という経文を読んでから、学習者の時間に対する理解はまちまちです。

師：まちまちならそれでいいのです。皆さんは新奇なことを聞いてまた執着を起こしてしまいました。皆さんに教えますが、皆さんが思いもつかなかった多くのものはみな、神です。一部のものは皆さんがいつも口にしているものですが、それが神であると皆さんは思いもつかなかったのです。この宇宙はあまりに歴大であり、多くのことは人間に知られてはいけないことです。眠くなることがあるのではありませんか？ 本を読むと眠くなり、法を勉強すると眠くてぼけてしまうのではありませんか？ 皆さんに教えますが、それはこの人類空間のある次元の神です。それを突破することができなければ、あなたは即ち人間なのです。それもわざとあなたに対して何かをしようとしているのではなく、すべての人間に対して皆同じです。ですから、人間が疲れたり、だるくなることがあります。人間から脱皮しようとするなら、何でも突破しなければなりません。そうしてはじめて、できるようになります。それと一致してしまえば、それはあなたが人間だと思ってしまうです。

弟子：「シドニーでの説法」と「アメリカでの説法」の中に、先生は宇宙空間の構成と生命の起源について説いてくださいましたが、私たちの修煉と何の関係があるのでしょうか？

師：宇宙の構成と生命の起源は皆さんの修煉と非常に関係しており、しかも私は目的があってそれを説いたのです。そこまで学ぶことができず、あなたの境地がそのレベルに達することができなければ、あなたと関係ないように感じてしまいます。しかし、「アメリカでの説法」は私は在席の三千余りの知的レベルの高い知識人に説いたのです。中の半分の学習者は学位を持っており、博士もいれば修士もいました。いくつかの学位をとった人もいます。彼らは中国人のエリートであり、皆アメリカに行ってしまいました。私は彼らに対して説いたのです。これら

の学習者にいろいろな分野の人もおり、考えが非常にオープンです。法を勉強するにあたってそれぞれに理解できない疑問があります。この理解できないところは即ち、障碍なのです。私は皆さんの状況に応じて、その理解できないところを破るために説いたのです。これは一つの目的です。もちろん、更に深い内涵もあります。

弟子：法輪椿法を練習する場合、単独して一つの法輪を抱くことができるのでしょうか？ 貫通両極法の場合、上腕の力で前腕を動かすのか、それとも逆なのでしょうか？

師：私たちの功法は非常に随意的であり、単独してどの動作を行っても構いません。仕事のある人のことを配慮し、忙しい社会活動の中で修煉できるようにするために、このように便利であり、このような便利な法門を開きました。どんな状況下でも修煉でき、時間が多ければたくさん煉功し、少なければ少なく煉功すればよいのです（時間のあるとき、その分を補えばよい）。ただし、最もよいのは全てを練習することです。このような関係です。

貫通両極法は上腕の力で前腕を動かすのではなく、その逆でもありません。腕全体が動いていると思います。しかし、第五式の功法は前腕の力で上腕を動かすのです。貫通両極法は前腕に力を入れれば、動作がきれいになります。私がここで言いたいのは、これらの些細なことに気を使わずに大きなところに目を向け、法を勉強すべきだということです。

弟子：海賊版の本の販売を止めたので、その人は私を恨んで、一部の学習者を連れて別のところで煉功しています。私はどのように彼に対処すべきなのでしょう？

師：もし彼が金儲けのために海賊版の本を売っていけば、ここではっきり言いますが、その人は私の弟子ではありません。もし海賊版の本を買ってきて、原価で学習者に譲っているのであれば、皆さんの代わりに購入しているのであって、法を破壊しているとは言えません。もし本の中に間違いがあつて、彼がそれを知らないのであれば、このようにしないでくださいと彼に教えるべきです。このことはこのように対処します。そこまでトラブルを激化させる必要はありません。もしその後、彼が派閥を作るのであれば、これは決して私たち大法弟子の行為ではありません。

弟子：私はよく夢の中で鬼のようなものが私の体を制御しているのを見ました。私はすぐに自分が正法修煉の弟子だと思いました。

師：良くないものが見えても、恐れなくてください。修煉したばかりの人、またはしばらく修煉したが精進しておらず、修煉の進みが非常に遅く、長きにわたってこの状態にいる人は、時々恐ろしい光景が見えるのです。なぜでしょうか？ 他の空間は、常人がそれをあの世と呼んでおり、そこにいる生命の数は私たちのこの空間と同じです。夜、私たちが休みになり、向こうの空間では昼になります。この空間の夜は向こうの空間の昼間です。この空間の昼間は向こうの夜です。夜、あなたが寝てしまえば、その空間のものはちょうど出てきて活動します。昔、お年寄り「夜、外に出ないように」といいましたが、それも一理あります。夜の時、このようなものが多く、昼間の時、それらは休んでいます。

修煉したばかりの時（あなたは常人から始まったのです）、この境地におり、天目が開いていれば、それらが見えるのです。あなたが常人の中の非常に低い次元から始まったので、それらはあなたが見えるのを知っています。そして、彼らはあなたと接触しに来て、またはあなたの煉功を妨害する現象が現れてきます。皆あり得ることです。しかし、自分を制御することができ、そのようなものを相手にせず、ひたすら法を学び修めているのであれば、すぐこの次元を突破するのです。次元が高まったらそれらのものも見えなくなります。なぜなら、あなたは次元が高まったから、それらはあなたに届かなくなったからです。あなたはまだ常人の中で修煉していますが、あなたの体の外にある場は既に時間的と空間的な差があります。それらのものは非常に小さくなったため、あなたには既に見えなくなり、あなたを妨害することもできなくなりました。これらのことは「法解」の中でも「義解」の中でも私はすでに説きました。

弟子：「誰のために存在するのか」という経文は、徹底的に人間の一面を取り除き、人間のこの殻から脱皮するようにと私たちに教えているのでしょうか？

師：そのとおりです。多くの方は最初の頃、法が素晴らしいと思っていますが、この法が人類に良いと彼らは思っているからです。修煉の人として、常人の社会を妨害することなく、常人社会にもメリットをもたらすことができるので、これを学ぶべきだと思っています。彼の基点は常人のところに置かれています。一部の人はその後長きにわたって、常人の基準をもって大法の全てを量っており、少しでも現在の人間の考え、人間社会の方式に合っていないければ、それを認めず受け入れなくなります。実は彼が守っているのは人間であり、人間から脱皮したくありません。このような道理です。修煉の人の最終的な目的は圓滿成就であり、人間から離れるのであり、人間の観念を抱き放さないようなことを決して許しませ

ん。

弟子：私は普通の情を忍ぶことができますが、私のどこかが良くないと言われると、ちょっと我慢できなくなります。

師：実はあなたには普通の忍さえできていません。何も起きない時に自分に忍ぶことができると思っているのは何でもなく、ただの空想です。本当にトラブルに遭遇して、忍ぶことができれば、それこそ本当に忍ができたことになります。これは法が分かっているればやり遂げられることです。トラブルに遭遇したとき、または突然トラブルが現れたとき、その瞬間、どのくらいできたのかは極めて重要なのです。まったく忍ぶことができず、分かっているでも忍ぶことができなければ、それは忍とは言えません。自分に忍ができるという人はいますが、突然トラブルが現れたとき、やはりうまく制御できません。これはまだ少し足りないのです。突然現れたトラブルに対しても忍ぶことができ、ひいては夢の中でも自らを制御することができるのであれば、それこそしっかりとしたものになります。夢そのものは修煉ではありませんが、あなたの心性がしっかりとしたものであるかどうかを確かに試すことができます。あなたが良くないと言っているのは常人であり、神佛ではありません。修煉者はなぜ心が動じてしまうのでしょうか？

弟子：法理を悟る時、または心性の関門を乗り越える時、心の中で先生に話しかけていますが、それは執着なのでしょう？

師：これは執着ではありません。これは執着とは言えません。しかし、話したら話したで、何かの答えや報いを得ようとは思わないでください。または話したから、先生が私に何かの恩恵を与え、先生に寛大にされるのではないかと思っはいいけません。話したら話したで、話すことが許されます。話す者にその心があり、聞き手である私には何の心もありません。求めずとも自ずと得るのです。如何なる有為なこともいいけません。如何なる目的のある心を抱いて私と話してもいいけません。「今日はどうしても先生の顔を見たい。師父の表情を見れば良いかが分かる」と先生はおっしゃったから」。このような人はいます。毎朝起きたら、今日順調かどうかを知りたいから先生の肖像を見ておかないといけません。毎日何をしても先生の肖像を見るのです。あなたは既に相当深く執着しています。修煉者は何かをしてそれを判断できず、それが正しいかが本当に分からない時、先生の肖像を見れば、本当にヒントを与えられます。修煉は人の心を修めることですが、皆さんはその心を取り除かず、かえって私に向かって、その心を発しています。

皆さんに教えますが、今日の佛教はなぜ修煉できなくなったのでしょうか？ その最大の最大の原因は彼らが修煉しているのではなく、求めているところにあります。しかし、このような求めは彼らに気づかれないものです。佛を拝む時に何を考えているのでしょうか？ 「家の誰それが病気になっており、私は佛を信じているので、佛様どうか私を加護してください」。その人はつまり自分が佛を信じており、お香を焚いていると言っています。彼は佛と交渉をしています。また、佛を拝む時に、頭に明確な目的があって佛を拝みお香を焚いているのではないと心の中で思っています。しかし、毎日このようにする時、これで私が佛を敬い、佛を修めていることになると彼は思っています。佛様よ、私は佛様に対してなんと敬虔なのでしょう。私は佛様に対して非常に敬虔なので、佛様にはきっとそれが見えるのだと彼は心の中で思っています。このような考えは佛にとっても受け入れられないもので、この人が本当に良くないと佛は思っています。

佛教の中の人にはどのように修煉するのも分からなくなった、と私はいつも言っていますが、こういう意味です。彼にはまったくそれを意識することができず、その念が深く隠されています。現在の人はずる賢くなっています。現在の人間はこのような心を隠すのです。しかも覆いをもってその心を隠すのです。このような人を見て本当に濟度し難いと私は思います。このような人にその心を気づかせても、本人は既に自分の中に隠れているこの覆いと隠されているものに気づかなくなります。しかも、その人に肝心なことを気づかせ、私の法身が彼の肝心なところを指摘する時、彼は常人に対処しているように、私の法身を騙します。「私が間違った」と彼は虚像を作るのです。その後またほかの覆いをもって自分が隠していることを隠すのです。他の覆いを使います。人間が既にこの程度まで至ってしまい、どのように濟度するのでしょうか？ しかも、現在師父がここで教えており、弟子を仕込んでいます。廟の中に見守ってくれる人は誰もいないのに、どのように修めるのでしょうか？ 人間はここまで来てしまい、どのようにすべきなのでしょう。

弟子：多くの学習者は先生の話聞きながら記録を取っていますが、先生にそれを止めていただきたいと思います。

師：記録を取っている全ての人、それをやらないほうがよいのです。なぜでしょうか？ 皆さんに教えますが、私の言ったことが全部あなたの耳に入ることはありません。できるだけ多く記録しようということに頭を使ったから、いくら記録を取っても完全に記録できません。完全に記録されていないものを持ち出すと、それは一部分だけを取り上げ理解することになります。しかも、あなたもきちん

と先生の話の聞けなかったのです。これほど大きな妨害です。先生の話の覚えていないかもしれませんが、私の話を聞いてあることが分った時、あなたは即ち向上しており、同化しているのです。それが本当の向上です。ここを出る時、全ての人に変化が生じます。しかし、記録を取った人が何も変わっていないかもしれません。これほど大きな妨害です。今までこのことについて言及したことはありません。記録を取らないでください。

弟子：「道法」という経文の内涵について更に説いていただきたいと思えます。

師：もし皆さんにはっきり説くのであれば、私は直接経文の中でそれを書きます。これがあなたを悟らせるということです。悟れる分を悟ればよいのです。如何なる観念も抱かずに悟れば、悟ったものがいくら少なくともずれることはありません。ただ悟ったものが少なく、分かったことが少ないだけで、決してずれることはありません。皆さんに非常にはっきりと教えることができれば、このように書かなかったのです。

弟子：観念と執着心とは、どういう関係なのでしょう？

師：あることを良いと思ひ、いつもそれを掴んで放さず、これが執着です。はっきり教えますが、あなたが放下できない如何なるものも執着であり、これは非常に簡単なことです。皆さんの多くは法の勉強が不十分です。不十分の原因は、皆さんが法を勉強していないのではなく、勉強の量が少ないのでもなく、常人の観念を抱きながら勉強していることです。あなたの心が求めたものと一致した内容を選んで、それが良いと思ひ、それだけを読むのです。あなたの要求に合っていないような内容、あなたと関係なく、ひいてはあなたの観念と一致していない内容を読まず、選んで読んでいたのであれば、修煉して永遠に向上することができません。『轉法輪』の中に書いた内容は皆さんの修煉、心性と関係のないように見えますが、その中に異なる次元、異なる形式のものが含まれています。私が功について話していますが、実はあなたに教えますが、中に心性上のものも含まれています。それは系統的なもので、一篇を飛ばして読んでもいけません。この観念を変えることができなければ、本当に皆さんの向上と圓滿成就に影響します。

弟子：しばらく経つと、頭上が何かによって押さえられているような感じがありますが、どの部分なのかははっきり分かりません。

師：もうそれに構わないでください。何事にも気にしないでください。あなたが修煉している弟子であれば、あなたに現れた全ての現象をみな良い現象だと思っ

てください。私は「三花聚頂」について説いたことがあります。それは非常に低いレベルに過ぎず、世間法の中での現れです。次元が高まったら、更にレベルの高い現われがありますが、多くの形式の変化は頭上に現れるのです。その時、頭上での圧力は非常に強く感じます。私が具体的な現象を話すと、皆さんはそれに対して、執着心と歓喜心を起こしやすいのです。様々な形をする佛像があると皆さんはご存知だと思いますが、つまり頭が四つあったり、頭の上に頭が重なっており、その上更に重なったり、その上にまた重なったりしているものです。これらの現象は皆さんの修煉の中で全部現れてきます。これは佛法の威厳であり、佛法の威厳さの表れの一部です。しかも、これはただの一種の現象に過ぎません。幾千幾万、幾億種類の功の状態と法の状態が現れてきます。それなら、頭上では何も感じないことがあり得るのでしょうか？ 功柱が高くなる時も押えられ、頭が押えられていると感じることもあります。何でも現れてきます。これほど良いことなのに、それが良くないと思っっていますが、あなたの心性はどこに置かれているのでしょうか？ あなたが所在している次元にふさわしいのでしょうか？ ですから、皆さんにいつも教えていますが、見えなくても結構なことであり、必ずそれを良いことだと思っってください。私は全ての人に全ての次元における現象をいちいち教えるわけにはいきません。それなら、あなたは喜んでたまらなくなります。毎日これらの変化に気を取られると、修煉できなくなります。ですから、私は皆さんにこれらのことを説きません。心に磨きをかけるしかありません。真の向上もこの心次第です。人の心が昇華しない限り、何も役立ちません。

弟子：自分に乗り越えられない関門がある時、先生の肖像の前で悔い改めるような話をしてもよろしいのでしょうか？

師：話したら話したで、これは過ちではありません。しかし、話したらそれを改めなければなりません。今日話しましたが、出かけて元の木阿弥のままで、戻ってきたらまた肖像の前で話すのでは、何の役に立つのでしょうか？ 先生に話したら、過ちを悔い改めなければなりません。それを改める決心を持つべきです。

弟子：「内を修めて外を安ずる」という経文の中の「これで大きな脅威がやってきた」について、説明していただけないでしょうか？

師：このような質問を出した学習者がいるから、私はこの文章を書きました。曰く：法輪功を修煉することは良いことで、社会の人々の道徳を元に戻らせることができます。しかし、もし皆がこのように善であれば、他国に攻撃されたらどうでしょうか？ 戦争が現れたらどうでしょうか？ 私はこの質問に対して書いたのです。

戦争は人間が起こしたければ起こせるものではありません。全ては天によって動かされており、天象の動きによって現れてくるのです。人間はこの世でいくら考えても、試算しても、いくら動いても、時にどうしてもやり遂げることができません。時にやり遂げることができたのですが、それは自分の努力によるものだと思います。実はその人の努力、その人の一生における活動もその人にとって必然的なことです。このようなことです。ですから、人間が何も動かなければ、棚からぼたもちが落ちてくることもありません。人間はこのように生きており、神のようになることができないからです。その人に教えても、彼はそれを信ぜず、元のままに争ったり闘ったりします。これが人間なのです。ですから、闘いや争いも必然的な行動であり、人間の行為となり、つまり人間なのです。そのため、人類社会に現れる状態も人間の状態なのです。

弟子：私たちが心性を高める時、自分の業力は消去されましたが、それは転化して、私たちの心性が高まる機会を設けてくれた人のもとに落ちるのでしょうか？

師：このようなことではありません。あなたはかなり執着しているようですね。あなたのものが無くなるのではないかと心配していますね。(笑) あなたに教えますが、まったく皆さんが想像しているようなことではありません。皆さんの多くの業力は私が消去してあげました。実のところ、私は皆さんの肩代わりをしたのです。過ちを犯したら返さなくてもよいということは誰にもあり得ないことです。これは絶対に許されないことであり、天理なのです。皆さんが消すものはあなたが修煉できるように、あなたの心性に見合っただけに耐えることができるように残してあげたものです。少しでも多くなってしまうと、あなたは落ちてしまい、修煉できなくなります。私は皆さんの肩代わりをしたからといって、皆さんから何かを取ろうということはありません。何でも私のものであり、私は何もほしくはありません。一部の良くないものは直接壊滅させましたが、これは他の誰にもできないことですが、私にはできることです。

イエスがなぜ十字架に磔にされたのか、釈迦牟尼がなぜ涅槃しなければならなかったのかは、皆さんがご存知でしょうか？ 釈迦牟尼の指の骨ですが、多くの人は法門寺に行って見に行きましたが、それは本当に釈迦牟尼の指の骨です。あの指の骨までこのようになっているのに、彼の体はなぜ腐ることがあり得るのでしょうか？ 彼は体を持っていくことができないのでしょうか？ 完全に高エネルギー物質に変わり、既に肉ではなくなりました。それなら、なぜ彼は涅槃した

のでしょうか？ 皆さんがご存知ではないかもしれませんが、修煉の過程で皆さんは人間に借りがあるだけではなく、異なる天体、各種の次元、各種の環境の中に多くの多くの借りがあるのです。これらのことは人間には全く解決できないことであり、次元の低い神にも解決できないことです。この人を済度したいのであって、本人も修煉する気持ちがありますが、このような人に慈悲の気持ちを持たずにいられるのでしょうか？ 佛は他でもなく慈悲深いのです。それでこの人を済度しますが、彼が作った借りをどう扱うのでしょうか？ それを解決してしまうということは、実はこの借りを佛の身に回すことです。佛が人を済度しに来る時、肉体がなければなりません。この借りをどこに回したのでしょうか？ 全部佛の肉体に回したのです。結局、佛でもイエスでも、自分の肉体を解脱させることができなくなりました。済度された弟子が作った業は異なる次元の異なる時期にある異なる種類の業であり、しかも宇宙の各方面の多くのことと関わりを持っています。彼らが全く解脱することができなくなったため、体を捨ててそれを焼却する方法を取り、全てを解決しました。これで全てが解決され、彼らが受け持った借りも返されたことになりました。

イエスは自分が十字架に磔にされ、それほどの苦痛を舐めても、最大限に借りを返し、異なる次元からの彼に対する怨念を解こうとしました。人間は所詮人間であり、私にこのようなメモを出した人もいます。「先生、あなたはこのように、あのよう私を済度すべきだ」ということです。私に言わせると、佛はどうしてもあなたを済度しなければならぬのでしょうか？ 何もやることがないからそうしたのでしょうか？ どうしてもあなたを済度したがつているのでしょうか？ あなたを済度せずにはいられないのでしょうか？ 釈迦牟尼は佛と如来の数がガンジス川の砂の数であると説きました。ガンジス川の両岸にどれほどの砂があるのでしょうか？ 釈迦牟尼は如来がガンジス川の砂ほど多いと説きました。それほど多くの如来がいます。これは釈迦牟尼が当時自分のいる次元で説いた話です。これほど多くの佛はどうして人間のことに手を出そうとしないのでしょうか？ 実は一人の佛は上にいたままで、下りてこなくても、手を振るうだけで全人類の病が全部なくなります。人を済度し、業を滅すようなことは、手を振るうだけで全人類の業が全てなくなりますが、誰もこのようなことをしてはいけません。

人間は自分で作った借りを返さなければならず、しかも作った借りは人類という次元のものだけではありません。ある人を済度しようとするれば、必ず本質からその人の心を変えなければなりません。これこそ本当に済度することになります。彼の借りを肩代わりし、彼をきれいにしましたが、彼の思想境地が昇華しておら

ず、表面だけがきれいになりました。これは偽りのものです。皆さんの考えの深いところを変えなければならぬとなぜ私はそう言ったのでしょうか？ 病気があるから大法を学びにきたと言った人はいますが、最初の頃認識できなかったのですが、後に分かるようになりました。「先生が病気を治療しないとおっしゃったから、私も病気治療のことを考えません。よし、病気治療のことを考えません。病気を治療してもらうことを考えずに本を読み煉功します。こうすれば、先生は最後にきっと私の病を取り除いてくれます」と彼は密かに考えています。彼の表面がきれいになりましたが、本質は変わっていません。これは人を騙すことであり、先生まで騙そうとしています。これではいけません。実は自分を騙しています。

つまり、皆さんが変化したいと思うならば、必ずあなたの本質の深いところから自分を変えなければなりません。これこそ本当に昇華することになり、本当に変化することになります。心性の本質が変わらない限り、トラブルに遭う時、それはすぐ出てきて、拡大され、現れてきます。佛がもしこのようであれば、大変なことになるのではありませんか？ 全て本質から変えなければなりません。ですから、修煉は最も厳粛なことだと私は言っています。皆さんが真に本質から自分を変えなければ、何の役にも立ちません。常人社会で良い人になったり、模範人物や英雄になったりして、それは善の念によるものかもしれませんが、何の心でこのようになったのかをさて置いて、彼にきっと一つの考え、一つの目的があります。ですから、このような人は長く続かず、将来また過ちを起こします。以前このような話があったのではありませんか？ つまり死んだ人を模範にしますが、生きている人を模範にしません。人間もこの点に気づきました。模範人物はいつかまた過ちを起こしたらどうしましょう。いかなる法令、ひいては何かの運動をしても永遠に人の本質と心を変えることができません。人間の心が本当に動いて、はじめてやっと人を変えることができます。

先ほど説いた釈迦牟尼の涅槃の話にしても、イエスが十字架に磔にされた話にしても、彼らは人間のためにこれほどつらい苦しみを嘗め、これほど大きな苦勞をしたのです。人間はどのように自分に対処すべきなのでしょう？ 誰のために責任を負うのでしょうか？ 誰のために生きているのでしょうか？ 自分のために責任を負うということは、即ちはっきりと自分のために生きていることになるのではありませんか？ 誰もが自分の内心から自分の間違いを探すことができれば、確かに人類社会の文明を高めることができます。私たちの大法はこのことを成し遂げることができますが、決して常人社会のこれらのことのために大法を

伝えたのではなく、修煉者が向上できるようにするためです。しかし、学ぶ人が多くなればなるほど、一つの環境が形成され、人類社会全体を向上させることができます。このような関係です。しかし、皆さんに教えますが、決して私が社会のために、誰そのために人類社会で何かをしようとしているのではなく、皆さんの圓滿成就のためにそうしたのです。

弟子：間違っことをし、その時業を滅することが現れましたが、これは先生がおっしゃった現世応報のことなのではないでしょうか？

師：現世応報のことは昔からありましたが、将来にもあります。小さい問題がある場合、現世応報のことが現れます。悪いことをした人は出かけたとき、大きく転んだり、または何かのものにぶつかり、それぞれ程度が違いますが、確かに彼を懲罰しました。人間は往々にして、他の空間に高級生命が存在していることを信じません。それで、彼はこの出来事を偶然なことだと思えます。このような人は人間が唯一の霊性のある生命だと思い込んでいます。人間はここまで可笑しくなりました！ この宇宙のいたるところに生命が存在していますが、人間は悪いことをする時になると、やはりそれをしてしまい、思うままにやってしまいます。人間がこの程度まで至った時、現世応報のことは少なくなります。どうなるのでしょうか？ 業力を積んでしまい、ますます多く積んでいます。あまりに業力を多く積んでしまう時に、その人の生命が短くなります。多ければ多いほど、生命が短くなり、多ければ多いほど、生命が短くなります。悪事を多く働いた人は極悪非道になった時、この空間の体が死んでしまいましたが、他の空間では引き続き彼を消滅しています。彼がすべての業力を償いきる時まで続きます。消滅の方式はたくさんあります。彼は彼のすべてを全部償わなければなりません。これは非常に恐ろしいことです。修煉者は常人と違って、多くの場合は向上している中で業を滅し、皆さんを悟らせます。

弟子：家で修煉している場合、煉功点で修煉するのと同じように先生が功を演化してくれないのではないのでしょうか？

師：もし、本当に自分を煉功者として家で修煉し、着実に修めていけば、外で修煉することに劣ることはありません。しかし、人間は往々にして惰性があります。これはあなたが認めたくなくても否定できないことです。あなたの考えはまだそこまで昇華していないからです。集団で煉功するという環境から離れば、あなたを励ますものがなくなったかのようなのです。修煉するようあなたを促す外的な条件もなくなります。例えば、座禅を練習する時、みんな痛くてたまりませんが、誰も足を崩さなければ、あなたも崩すことができません。これであなたの煉功時

間を延ばしてくれます。各方面においてこのようなあなたを促す環境があります。この環境から離れると、自分でうまく制御できず、あなたを促す外的な要因がなければ、自分を緩めてしまい、精進できなくなります。修めてはいますが、進歩はかなり遅くなります。こういった関係です。もし本当に自分で制御することができれば、どこで修煉しても同じですが、自分で制御できないことが最もありがちなのです。私は自分で制御できるという人はいます。しかし、一部の人にそれができると私は信じていますが、一部の人では私は信用できません。なぜならば、あなたがまだあの次元を突破していないと私にはっきり分かっているからです。

弟子：大法を破壊する人は、『巻二』に多くの誹謗中傷のことを書きましたが、この本をどう扱えばよいのでしょうか？

師：焼却すればよいのです。この人は既にここまで悪くなりました。どのような人もいて、佛まで罵る人もいます。彼が罵ったとたん、彼の元神は落ちてしまいました。彼のこの死にかかっている人間はこの体を動かして人類社会で動いているだけです。このような人は最も憑き物に憑かれやすく、憑き物はすぐ憑いてきます。この人は元神までなくなり、殻だけ残っているので、憑き物はやってきました。このようなことが多くあります。この類の偽気功師も多くいますが、実はこのような人は最も悪い人です。

弟子：善良なロシア人の多くはキリスト教を信じていますが、どのようにして彼らに法を得させることができるのでしょうか？

師：もしあなたに便利な条件があつて、彼らと知り合っていれば話してみればよいのです。大法を学びたいければ学んでいいのですが、そうでなければ無理にすることはありません。大法は厳粛なものであり、如何なる人をも強引に学ばせません。どの国の人であれ、皆同じです。私たちが法を広めることは、ただそれらの法を知らない人に法を教え、彼らを取り残されないようにするためです。学びたいかどうかは、自分自身のことです。外国人であれ、中国人であれ、皆同じです。善良かどうかは、それが現在の人々の基準で量っているのです。人間誰もが善の一面と悪の一面をもっていますが、人類社会全体は今、滑落しつつあります。相対的に言えば、一部の良い人に元に戻る善の念がまだ残っており、これが最も貴重なものです。常人の中で良い人になるということにいたっては、私はそれに対して特に何も感じていません。元に戻りたいという考えこそ、最も貴重なもので、この考えがなければ、救いがたいのです。

弟子：ある常人は大法の本を破ろうとしています。学習者は大法の本を

守るため、その人と喧嘩してしまいました。これは忍が足りないのではないのでしょうか？ 業を作ることになるのですか？

師：この学習者が間違っているとは言えません。しかし、問題にぶつかったら、私たちも考えなければなりません。彼はなぜあなたの目の前で本を破ろうとしているのでしょうか？ やはり私たちに何かの心があるのではないのでしょうか？ または私たち自身のどこかが間違っているのではないのでしょうか？ 私たちの考えが変わるときに、彼は直ちに本を破ることをやめてしまうかもしれません。多分そうなります。どんな問題にぶつかっても自分を探さなければならないと私はいつも言っています。この問題があなたに関係なくても、あなたの目にとまったら、自分を探すべきです。このようにすれば、前進の道のにあなたを阻むものはないと思います。

弟子：私は法輪大法を学んでいますが、主人は周易を研究しています。私はこっそり彼の本を焼却していますが、これは悪いことをしているのでしょうか？

師：これは悪いことをしているわけではありません。私たちの法の背後に内涵があるのです。しかし、それらの偽気功師の本の背後にも何らかのものがあります。ただそれほど大きな内涵はありません。そこに非常に低い、三界から離れていないものがありますが、非常に邪悪なものです。その姿かたちは動物やら、狐やら、妖怪やら魔物、鬼などのめちゃくちゃなものであり、みな黒いものです。それは人間に有害なもので、陰性のものです。これらのものを部屋に置くのは確かに良くありません。ご主人は何も知らずに、これらのものを受け入れ、彼にも害を与えています。あなたはそれを焼いてしまったら、それはそれでいいのです。もし彼がそれを承知せず、あなたと争ったり、喧嘩したりすれば、それ以上触れないでください。もし彼が何も思っていなければ、焼却したらしたで、それでいいのです。しかし、あなたは振り返って自分に何かの心があるのではないかと見るべきです。多くのことに原因があると私は思います。しかし、それらのものはあなたを妨害することができず、なぜならば、あなたは修煉しており、体の外に覆いがあるからです。皆体の外に覆いが置かれているのです。でなければ、他の人に妨害されるだけでなく、あなたたちも他の人を妨害してしまいます。

弟子：宇宙の演化とは何でしょうか？

師：ご存知のように、宇宙は人類自身で下した定義であり、宇宙はいったいどのくらい大きいのでしょうか？ 人間にもそれを説明することができません。通常、私たちが指しているこの宇宙は、私たちに見えるこの天体の範囲のことです。現

在の科学者が望遠鏡で認識した最大の範囲は、私たちのこの小宇宙を超えていません。はっきりいえば、つまり小宇宙を指しています。しかし、私たちのこの小宇宙は大宇宙の兆分の一にもならない、兆兆分の一くらいの小さな小さな範囲です。更に、この小宇宙は一粒の塵芥の中の塵芥であり、塵芥の中の塵芥で、それほど小さいのです。大宇宙全体は運動していますが、大きい範囲の天体が運動しているということは、宇宙が運動していることになるのではありませんか？ このような運動で気が生まれ、物の種が生じます。修煉の人はこのような運動を演化と言います。人間の脳はそこまで認識することができません。この宇宙はあまりに膨大であり、皆さんは最高のレベルまで修煉し圓滿成就する時になっても、この宇宙がとてつもなく膨大であると感じ、その膨大さに驚嘆するのです。

弟子：「名声は圓滿成就できないことの強大な障碍である」と師父はおっしゃいました。常人社会で名声に執着しなくなりましたが、大法の仕事をす

師：それは執着が現れたということであり、それを取り除かなければなりません。時には、古くからの学習者を含む一部の学習者に現れる心が非常によくありません。まったく修煉者としての表れではありません。しかし、この人が良くないとは言えません。なぜならば、彼が取り除いたすべての心は、あなたには二度と見えません。彼の取り除かれていない心だけが現れることがあります。つまり、彼の多くの心が現れてこないということは、彼がすでに非常に良く修めたということです。彼の取り除かれていない心だけが現れることがあります。まだ取り除かれていない心が現れたら、その人が良くないと言ってはならず、その心が良くないといえませんが。

皆さんがどのように修煉しても、まだ取り除かれていない心を隠すことはできません。皆さんがどのように修煉しても、ひいては最も神聖な仕事をしていると知っている時でも、私は様々な方法をもって、皆さんの最も放下できないその心を現れさせます。大法のために仕事をしている時でも、私はその心を現れさせます。仕事をすることによって皆さんが向上していなくてはなりません。心性の向上こそ第一位であり、皆さんの昇華こそ第一位です。その心が純粹で清らかであれば、問題に気づくことができ、その時再び仕事をすれば、仕事は更に神聖になります。ですから、多くの人々がきちんと仕事を成し遂げることができなかったのは、多くの心を抱きながら仕事をしているからです。この心も放下できず、あの心も放下できない、という具合です。自分のことのために執着しているにせよ、大法のことのために執着があるにせよ、何かの心がある限り、仕事を通じて、そ

れを現れさせます。特に心が良くない時、それがやり遂げられないようにします。ですから、本人にとっては障害力が大きくなります。なぜならば、純粹で清らかな心をもって、神聖なことをしてはいけないからです。もし、純粹で清らかな心で神聖なことをすることができれば、それこそ本当に神聖なのです。

弟子：座禅をする時に、足が震えたり、吐いたりする人がいますが、本人自身もそれを制御することができません。どうぞご説明願います。

師：それぞれの情況は皆違います。私はこのような場で話す以上、普遍的に話してはいけません。純粹に煉功することができず、まだ他のものを練習しており、または専一になっておらず、意念の中に他の功のものが入っていれば、様々な状態、これと類似している状態が現れます。もう一つですが、業力が大きい場合、それを消すときに強く現れたため、このような状態になることもあります。

弟子：悟ったら、それを実行しなければならぬのではないのでしょうか？

師：このようになるべきです。完全に制御することはできませんが、すべてきちんと制御することは難しいことです。しかし、修煉の人はこのように自分に要求すべきです。

弟子：隔離されたものが多ければ多いほど、次元が高いのでしょうか？

師：そうではありません。基準に達したものだけが隔離するのです。

弟子：師父は隔離とおっしゃっていますが、私たちは皆師父に従って帰ることができるということですか？ 持っていくものが多ければ多いほど良いということですか？

師：実はご存知ではありませんが、法を得て、この心さえ確固としていれば、圓滿成就に向かうのです。これは間違いのないことです。

弟子：慈悲が深ければ深いほど、耐える力は大きいのでしょうか？

師：そのようなことはありません。慈悲心は情を取り除いてから生まれてきたものです。耐える能力は多方面を総合して構成された能力です。

弟子：師父に難を大きくして頂き、早く業力を償い、早く返本帰真しますが、このようにしていいのですか？

師：いけません。人為的に何をしてもいけません。人為的に苦を探して嘗めるのは更にいけません。これは間違っています。実は全ては順序があって按排された

のです。この面のことを考える必要はありません。

弟子：ほかでもなく、「真・善・忍」という三文字に従って行動すればよいと思いますが、これは正しいのでしょうか？

師：その通りです。心が確固としてさえいれば、このように行動し、要求どおりに行動してください。しかし、法を多く勉強しなければなりません。でなければ、異なる次元における真・善・忍の内涵があなたには分かりません。それなら、本当に真・善・忍の通りに行動することができません。

弟子：悟れないところがあります。どうして完全に分かることができないのでしょうか？

師：分からなくても大丈夫です。私が書いた全ての内容は、皆さんが短時間の間に全部分からなければならぬということではありません。深く法を勉強していくにつれ、分かるようになります。

弟子：時に先生の肖像を見るたびに怖がりますが、これはどういうことなのでしょうか？

師：これはあなたが恐れているのではなく、思想業力なのです。

弟子：うちの煉功点は場所を借りて、皆そこで法を勉強しに行きますが、これは大丈夫でしょうか？

師：条件が良く、あまりに気分が良すぎたら、修煉の意心地が良すぎて、それはよくありません。このような便宜があつて、お金を使わずにこのような場所があり、このような場所が提供されるのであれば、私は反対しません。少なくとも雨の日、冬の雪の日に行くことができます。もしお金で良い環境を作るのであれば、これはよくありません。金額の問題ではありません。

弟子：農村の弟子は本の中に書かれている現代科学の言葉が分かりません。

師：これは解釈してよいのです。この言葉の原義に基づいて解釈すればよいのです。つまりその元の言葉、この言葉の表面を解釈します。しかし、法を勉強しなければならず、飛ばさずに読むべきです。

弟子：表面の意味が分からない言葉がありますが、辞書を引いてもいいのですか？

師：いいです。それは問題ありません。辞書も字の表面の意味を解釈することし

かできません。しかし、往々にして私が使っている言葉は辞書の中にもありません。

弟子：私の隣にキリスト教の信者がいますが、彼はいつも字を書くように頼んできますが、書いてあげたくないのですが、それを断れません。書いてあげれば、妨害されるのではないかと心配しています。

師：書いてあげればよいのです。私たちは他の人に恩恵を与えることしかありません。彼は私たちを妨害することはありません。実はキリスト教にしても、カトリック教にしても、私はそれを仕事として見ており、修煉として見なしていません。それはまったく仕事なのです。

弟子：放棄したいことがあります、なぜどうしても放棄できないのでしょうか？

師：それが既に観念として形成されたからです。どうしてもそれを忘れられなくても、何とかしてそれを排斥しなければなりません。次第にそれが弱くなり、最後に取り除かれます。

弟子：「気機に従い下へ行きます」という動作は皆さんが一致して行ったほうがいいのではありませんか？ 時にお互いの差はあまりに大きいのです。

師：そうです。動作が一致していればいるほど、体の感じがいいのです。煉功をしている時、体の外にある気機を強めています。私たちの煉功はこの気機がいつも回転していることにかかっており、自動的に煉功しています。時々刻々煉功しています。煉功するときはずまり、この気機を強めています。ですから、皆さんの動作が一致しており、一斉に煉功しているとき、エネルギーが強くなり、より良く機制を強めるのです。

弟子：零下三十度前後の冬に、室内で煉功したいのですが、それはよろしいのでしょうか？

師：できるだけ外で煉功します。私たちは既に長年このようにやってきました。長春、ハルピンの学習者は外で煉功しています。厚着をすれば大丈夫です。しかし、あまりに寒ければ、室内で煉功しても良いのです。それほど寒くない時が来ると、また外に出ればよいのです。

弟子：ある学習者はお金を出して教室を借りましたが、これはお金に触ったことになるのでしょうか？

師：これは輔道站や煉功点が行ったことにならず、学習者がやりたいことであり、個人的な行為です。個人で良いことをし、煉功点に便宜を提供したいということです。このような関係です。これはその学習者が良いことをしているだけです。しかし、その学習者の受け持つ能力も考えなければなりません。まずそれほどの経済力があるかどうかのことですが、またこの学習者は長く修煉しているかどうかです。もし彼が考えを改めたら、これが採算に合わないことだと思ってしまうかもしれません。それでいつかトラブルが起きます。これらのことを考慮しなければなりません。しかし、私が思うには、できるだけ外で煉功することが最も良いのです。

弟子：煉功場の周りに他の気功をやっている人が多いのですが、彼らに妨害されるのではないかと心配している学習者がいます。

師：妨害されることはありません。他の気功は決して私たちを妨害することはありません。しかし、それに妨害されるのではないかという考えをあなたは持つてはいけません。まず自分自身が動揺してはならず、心が執着してはいけません。

弟子：最近、思想業力が非常に強く、自分が按排された魔ではないかとまで心配しています。思想業力は私自身ではないのでしょうか？

師：大丈夫です。それはあなた自身ではなく、業力です。あなたに教えますが、人それぞれにあるものが違うので、このようなものが多ければ、思想業力が強くなります。多いから、耐えるべきものも多くなります。以前この面において多くの間違っただけを働いたかもしれません。それなら、必死になってそれを抑制し、対抗していけばよいのです。それが自分ではないとわきまえることができれば、やりやすくなります。

弟子：自分の修煉が良くできていないと感じ、汚いものが多いです。家で師父の肖像を見るのも恐れています。

師：大丈夫です。師父にはどういうことなのか分かっています。以前間違いましたが、今再び始めればよいのです。ですから、安心して修煉してください。

弟子：娘は知恵遅れですが、既に三年間法を勉強し煉功してきました。しかし、彼女は大法に対して良く悟ることができません。彼女は圓滿成就できるのでしょうか？

師：知恵遅れでも、法を勉強するには問題がないと思います。三年間勉強したから、それが無駄になることは決してありません。あなたが考えすぎたのではありませんか？ 状況はそんなに悪くないかもしれません。往々にして、一部の子供

は相当身分のある人です。一生の中でいつ法を得られるのか、いつ何をするのか、上では（上にいた時それは高級生命でした）はつきり見えるのです。この家の人々が将来法を得られるのを見て、この家に転生してきます。このようなケースは非常に多いのです。ですから、一部の子供は本当に神童です。少し劣っている子供もいますが、あなたはあまり考えすぎないでください。

弟子：法の勉強及び修煉の次元における各地区の差異をどのように扱うべきでしょうか？

師：これは差異がありません。各地区に非常に精進している人もいれば、そうでもない人もおり、上士、中士、下士がいます。地区によって後で法を得た人は進み具合において少し遅いかも知れず、これは間違いのないことです。ただ、後で法を得た人が先の人を追い越してしまう場合もあります。後になって法を得た人の多くは私に会ったことのない人で、法に対する理解と認識は非常に高いレベルに達しています。しかも進歩が非常に速いもので、何の妨げもありません。以前新しい学習者が法を認識する際、一つの過程がありました。当時私が広州に法を伝えにいく前に、二回説法を行いました。学習者は私が何を言っているのかが分からないようでした。ただそれが良いと分かっており、私が何を説いているのかが分かりませんでした。人間の観念、特に改革開放以降の広州の人が金儲けのことばかり考えています。三回目、四回目の講習班になって、一気に様子が変わって、私が何を説いているのかが急に分かるようになりました。それから多くの学習者が現れました。今、後になって法を得た人は非常に速く向上しています。多分この環境はすでに整い、各方面の条件もそろいました。つまり外的な条件が作用しています。

弟子：集団で法を勉強する時、通読は即ち繰り返して読むということで、討論しなくてもいい、自分で悟るべきだと思える人がいます。每日一講を読みますが、これは法の勉強にプラスになるのでしょうか？

師：通読はつまり文字通りの意味で、特別に説明することはありません。つまり一回一回繰り返して読み、通読することです。皆さんはなんと言っても一緒に法を勉強しているので、読み終わったらお互いに切磋琢磨し、話し合ったほうがいいのです。先生の話にこの意味があると急に悟り、私はまだそこまで達していません、という具合です。家で読む場合この方面において足りないところがあるかもしれません。今後、この足りないところを直すべきです。つまりお互いに切磋琢磨することで、これは必要なことです。しかし、通読は主たることです。一段落を読んで、それを止めて皆で議論して、再び読み始めては議論するようでは、良

くありません。大量に通読すべきです。自分のことを話し、自分の認識を語る時間は法を読む時間を上回ってはいけません。法の勉強は最も主たることです。

弟子：宇宙大法の起源、つまり「真・善・忍」について説いていただけますでしょうか？

師：皆さんに教えますが、皆さんには永遠に宇宙の大きさを分かることができません。そのため、その起源を教えることができません。しかも、そのような言葉もありません。この宇宙では、非常に次元の高い神の言葉をもってしても、宇宙の最終的なことを語ることはできません。人類の言葉はなおさらです。宇宙は人間にとって永遠に解明できない謎であり、人間は永遠にそれを知ることができません。皆さんの執着を法の勉強に用いてください。

弟子：観念は人間としての最も根本的なものなののでしょうか？ 人間に観念がまったくないということはどういう状態なののでしょうか？

師：人間に何の観念もなければ、非常に純真無垢で善良になり、しかも決して子供のよう状態ではありません。あなたは大人で、理性的なのです。子供は観念がなく、天真爛漫かつ善良であり、何かをする時目的を持たないのです。しかし、大人の場合、このようになりません。人間がこれらの観念をなくしても、このようにはなりません。なぜならば、あなたにまったく観念がない時、既に昇華している最中であり、既に向上しました。ですから、修煉の中でこの観念が徐々に少なくなり、弱くなり、最後になくなりますが、このような状態です。

弟子：集団で法を勉強する時、時には良いと感じ、時には良くないと感じますが、どのようにこの変化している気持ちを見るのでしょうか？

師：それは皆、あなた自身の修煉状態です。全ての修煉者が異なる環境においてきちんと行うことができ、各種の考えに妨害されることもなく、法を読めばすぐ頭に入る、というようなことは誰にもできません。しかし、皆さんに教えますが、関門をうまく乗り越えたり、うまく乗り越えなかつたり、またはそれを乗り越えられたり、乗り越えられなかつたり、これは即ち修煉なのです。すべての関をも乗り越えることができれば、あなたは神なのです。修煉する必要もありません。このようなことではありませんか？ しかし、自分を緩めてはならず、修煉は精進しなければならないものです。

弟子：ある輔導站の責任者は降格されてから、一部の学習者を連れ出して煉功点を作りました。

師：この責任者に確かに問題があつて降格したのであれば、それは正しいのです。金儲けをしたり、学習者を率いてでたらめなことをしたり、きちんと物事を判断できず、問題を起こした等……。これは法に悪影響を及ぼしているだけではなく、社会にも危害をもたらします。このような責任者を辞めさせるべきで、降格すべきです。

学習者にしろ、その責任者にしても、徐々に自分の間違いに気づくのです。しかし、その間に決してこの責任者を常人として見なしてはいけません。それではいけません。彼には乗り越えられないものがありますが、彼はまだ修煉者かもしれません。しかし、表面の現れにおいて、もし彼が本当に法を破壊するようなことをしたら、それは別です。法を攻撃したり、破壊したり、または彼の行いが法と相反するものであれば、それは彼の心に魔が生じたのです。彼はすでに完全に法と背離してでたらめなことをしています。この場合、私たちは決してこのような人を認めてはいけません。この問題が現れたら、このように対処します。私はこのような人を認めません。

彼について行った人ですが、皆さん考えてみてください、それも偶然ではありません。修煉は大波で砂を洗い流すことであり、真に心から大法を学んでいない人はこの方法で洗い流されたかもしれません。私たちはうわべだけの者は要りません。この原因もあるかもしれません。学習者は一時的に過ちを起こしたり、愚かになったりしたら、分かってから戻ってきます。しかし、一部の学習者はどうしても愚かで、自分が法を勉強しに来たのか、それとも誰その後についていくために来たのかをなぜ考えないのでしょうか？

弟子：彼らを真の神にするために、彼らに目覚めさせる時間が来ましたと師父はおっしゃいましたが、多くの学習者はそれを理解できません。

師：今はこのことを行いつつあります。皆さんが次第に目覚めてくるようにするために、今日話したこともそうですが、多くのことはこの問題について説かれています。

弟子：人間から脱皮するという試練はいつもあるのでしょうか、それとも一回しかないのでしょうか？

師：このような機会は決して多くありません。今後ほかの形があり、このような機会が再びあるかもしれず、もう二度とないかもしれません。すべては未知なのです。しかし、根本から変わらなければ、何回あつてもそれを乗り越えることができません。修煉はこのようなもので、何があるのかを決してあなたに教えませ

ん。あるかも知れず、ないかも知れません。全部あなたに教えれば、あなたは全てを乗り越えてしまいます。それは偽りのものです。あなたが知らない状況下で、肝要な時に、あなたが着実に修煉したかどうか、その一步を踏み出すことができるかどうかを見るのです。あるいは、それが正しいかどうかを判断する時、あなたはどのように判断するのかを見るのです。このようなことです。

弟子：『轉法輪』のある部分を読む時に、『轉法輪』（巻二）またはその他の大法書籍にあるそれと関連のある内容を一緒に読むというやり方は良いのでしょうか？

師：良くないのです。ひたすら読んでください。読んでいる本を読めばよいのです。このように読んでください。順序に従って読んでください。人為的に何かを探してはいけません。人為的に何をやろうとしても、いけません。更に皆さんにその重要性を教えますが、あなたが向上すべき時になると、あなたを向上させます。あなたにある次元の法理が分かるべき時が来ると、あなたに分からせるのです。たとえば、今日あることをしましたが、それが正しいかどうか分かりません。『轉法輪』を持ってきて、気ままにめくってみて、ある部分を開きたいという念を持たずに、随意にそれを開けば、きっと今日したことについての内容です。（拍手） もちろん、帰ってから試してみようと思ひ、この心があれば、何にも出てきません。修煉は厳粛なことであり、子供の遊びのようにあなたに試させるようなことは決してありません。これはいけません。つまり、人為的に何かをしないでください。

大法のこの本ですが、『轉法輪』は系統的に修煉するためのものであり、ひたすら読めばよいのです。そのほかの『法輪大法義解』や『轉法輪（巻二）』などに至っては、それは補助的なもので、参考として読むものです。『精進要旨』は修煉過程全体に現れた普遍的な問題と正しくない状態を正すためのものです。

弟子：大法の威力が無辺であるため、大法弟子は法を守る必要がないと言っている人がいますが、これは正しいのでしょうか？

師：正しくありません。大法は確かに威力無辺なのです。私たちは今日この常人类社会で修煉しています。もし腐敗堕落した高い次元の生命が悪事を働きにくれば、この法は護法の神またはその他の高級生命を動員してそれを壊滅させるのです。もし、弟子が悪事を働いており、この神が来て人間を殺してしまえば、人々はこの法は確かに威力が大きいと認め、誰も法を妨害しなくなり、皆さんも修煉できなくなります。神もこのように勝手に常人を殺すことをせず、皆さんの現在の修

煉環境を破壊することができません。修煉の中で、社会の人々と他の人々が私たちにいろいろな面において妨害をもたらした時、私たちは異なる状況に対して法を守ることができれば、これが法を守ることではありませんか？

それらの悪い人、悪事を働いた人に至っては、もしまだ助けることのできる人なら、説得したら、将来済度され得るかもしれません。もし人の意見を聞かず、独断専行し、ヒステリーになってこのようにするのであれば、ある時になると、彼を片付けるかもしれません。学習者に試練を与えるために、とりあえず彼を利用してあるかもしれません。修煉が終わった時に、自分がしでかした全てを償わなければなりません。これは間違いなくそうです。

弟子：神になれなかった人はどうして、最後に人間にもなれないのでしょうか？

師：宇宙全体は更新されています。人にとって、修煉が終わると、この環境も必要でなくなりました。残った人は更にただれた人間のくずであり、もっと良くない人間です。人間は駄目になったら淘汰されます。皆さん考えてみてください、このように続いていいのでしょうか？ 人間は本当に神に造られたのです。前回このことについて説明したことがあります、今日更に詳しく説明します。ご存知のように、私たち人間は分子で構成された空間に存在しています。しかし、ご存知でしょうか、私たちの周りにあるすべての物体は分子で構成されており、空気までもがそのようなのです。食べ物や飲み物や、あなたが接触した全て、あなたの周りにある全て、あなたに見えない全てまで分子で構成されたのです。外から、つまり宇宙の環境の外から三界を見れば、人間が分子の塊の中にいるのではありませんか？ あなたは分子の塊の中で生きており、あなたが呼吸した空気まで分子なのです。三界の外にいる高級生命が人類のこの空間を見る場合、この分子はどういったものなのでしょう？ 神は普通この分子を「土」、「泥」と読んでいます。あなたは泥の中におり、人間はとりもなおさず、泥の中で動いています。これは神の目に映った状況です。神はこのように見ており、全てがこのようなのです。しかも、異なる次元に更に高次元の物質があります。私がこのように説いたから、エホバが泥で人間を作ったとイエスが言った、ということに対して皆さんが理解できるようになると思います。あなたに見えたその「泥」「土」ではなく、すべてが泥、土なのです。あなたの肉までが泥や土だと思っています。神は分子という次元、特にこの最も荒い分子を最も汚く、良くない泥だと思っています。神はこのように見ています。

弟子：煉功の時、体の左右のバランスを取っていない人がおり、体が斜めになっているように見えます。

師：人それぞれ自分の状況があります。体の片方に物質が多く、もう一方に物質が少ないという人がいます。この状況があります。これは、歴史の異なる環境と状況下であなた自身が作ったものです。しかし、ひたすら修煉していけば、これらのことは私が片付けてあげます。あなたは自分でそれを片付けることができません。ですから、ひたすら修煉すればよいのですが、心が一つでも多く生じればいけません。そればかりを考えていけば、負担となり、障碍となり、やはり執着心です。先ほど既にお話しましたが、私は既に門がなくなるまで門を開きました。私は人の心しか見ていません。それでも修煉しなければ、私はあなたの心までも見なくなります。それなら、私はどのようにあなたを済度するのでしょうか？ そうではありませんか？

弟子：どのようにできるだけ早く、後天的に形成した全ての観念を取り除くことができるのでしょうか？

師：確固として大法を学び、よくない考えが現れたら自分が修煉者であるということ意識し、正念をもってそれを抑制すればよいのです。私の法身はあなたの考えをはっきりと見ています。それが自分ではないとわきまえることができれば、自然にそれがあなたではなくなり、それを取り除くことができます。しかし、一回でそれを全部取り除くことはありません。段階を分けて徐々にそれを小さくします。なぜならば、あなたが法を認識し修煉するために、それを残さなければならぬからです。一部の非常に良くないものはすぐに取り除かれます。このようなことです。

弟子：法を勉強する時に、寝てしまった学習者がいますが、それを指摘したら、反感を買ってしまい、彼は勉強に来なくなりました。

師：それなら、来るようにと彼を呼ばなくてもいいのです。彼は法を勉強しに来たのではなく、寝に来たのです。それなら、なぜ彼を呼ぶのでしょうか？ そうでしょう。寝に来たのであれば、私たちのところにこのような人は必要ではありません。

人が少なくなることを心配しないでください。煉功点に真に修煉する人が一人でもいれば、それは素晴らしいと思います。人が少なくなることを心配しないでください。たくさん来て、千人まで来ましたが、中に真に修煉する人が一人いなければ、何の役に立つのでしょうか？ しかも法を破壊しています。

弟子：時には法を解釈するという過ちを犯すことを恐れて、きちんと輔導できません。

師：この輔導のことについて、私は何回か話したことがあります。例えば、話すときにこのように話せば良いと思います。私の次元で私は法にこのような内涵があると悟り、これは私の次元で悟ったもので、もちろん法に更に奥深い内涵があります。自分のどこかが法と差異があり、またはこの法がある境地で何について説いたのか、などを話せば大丈夫です。しかし、法に他の内涵があります。これは既にはっきりと説かれました。つまり自分の考えを固定してはいけないということです。

弟子：煉功者が社会で仕事をしていますが、常人社会の理で物事に対処するのでしょうか？

師：仕事は仕事、修煉は修煉です。ただし、修煉を通じて心性が高まったということが仕事の中の具体的な問題に現れることはあります。また、上司がどうしてもあなたにやらせたいことに対して、柔軟に対応すればよいのです。なぜならば、あなたがそのようにやりたいのではなく、指示通りにやらなければ理解されません。しかも、その通りにすれば大きな間違いを起こすこともないからです。もし間違いを起こす可能性があれば、あなたは実際それをする際に、自分のやり方に従ってできるだけ善処するでしょう。あなたがどのように対処するかによります。私が思うには、みなきちんと対処することができると思います。問題がないと思います。もう一つですが、面子を大事にしている人がいますが、自分が大法を修煉しており、良い人間であることを人に知られたくありません。多くの問題は個人の原因で引き起こされたのです。皆さんに教えますが、今一億人が大法を勉強しており、人が少ないのではなく、あなたも個別の現象ではありません。人に笑われることはありません。特に長春という環境で、法輪大法を練習していると言えば、皆それが良い人だと分かっています。

また、多くの地区でリストラされた人が再就職する際、法輪大法を練習する人なら採用すると言われていています。あなたが独りで目立っていると思わないでください。そうではありません。私たちは既にこの環境を有しており、しかも全国においてこの環境が形成されたのです。

弟子：他の功法を練習する人が私たちのそばで煉功していますが、彼らはわざとテープの音を大きくしています。私たちはどうしたらよいのでしょ

うか？

師：これは大丈夫です。これも私たちの心が動じるかどうかを試しているのではありませんか？ 彼らがテープを流している時、ちょうど皆さんの心を刺激しているのではありませんか？ その時にそれに妨害されるかどうか、あなたが怒るかどうかを見えています。ですから、私たちは必ず自分のところで原因を探さなければならず、どんな時でもこのようにしなければなりません。そのままテープを流させればよいのです。あなたが本当に動じない時、自然に消えてしまいます。きっとそうなります。相手がわざとそうしたのであって、またはどうすればいいのか判断がつかず、新しい学習者も多い場合、場所を換えればよいのです。ここが良いと思えばこの場所をお譲りします。法輪功はどこでやっても、その場所は良くなります。私たちは環境を改善しているのであって、環境を選んでいるのではありません。

弟子：修煉者はどのように幹部の仕事をこなすのでしょうか？

師：現在指導者の仕事に本当に厄介なことが多いのです。社会の人々が皆法輪功を練習していれば、あまり苦勞しなくても部下が良く行うことができます。皆公のために考えており、自分のため、自分の私利のために求める人がおらず、皆他人のために考えていれば、この社会はどうなるのでしょうか？ もちろん、法を学んだら常人になるようにと言っているのではありません。この意味を言うだけです。どのように行うかに至っては、それはあなた自身の具体的な問題であり、煉功者にふさわしいように判断すればよいのです。一部の問題に対して折り合いよく、寛容になったほうがよいのです。自分に対して厳しくすべきです。

弟子：仕事の中でどのように社会の良くない気風に対処するのでしょうか？

師：あなたに構いきれないことなら、余計なことを考えないでください。あなたが職場の指導者で、職場の気風が良くなければ、あなたに責任があります。もし自分の職場のことでなければ、あるいはあなたが社会で何かの職位についていなければ、それに構わないでください。自分をよく管理すればよいのです。私たちが言っているのは、自分からしっかり行うことであり、誰もが自分をしっかり制御することができれば、社会が良くなるということです。皆ほかの人を管理したければ、管理すればするほど、悪くなり、トラブルも多く現れます。自分自身がきちんと行っておらず、他人ばかり管理しようとし、この人が良くないあの人が良いとお互いにそうすれば、お互いのトラブルはますます激化します。必ずそうなります。

弟子：どうして間違っ**て**悟**っ**てしまう人、または極端に悟る人がいるのでしょうか？

師：実は非常に簡単です。ほかの問題ではなく、ただ考えの基点をどこに置いたか**の**問題です。つまり、あなたは悟ろうとする時、あなたの考えの基点がどこにあるのか、あなたがどの基点に立っているのか**の**ことです。自分自身に放さない執着があり、その答えを探そうとし、自分の放したくないことを守るために何かを探そうとしてい**れ**ば、当然のことですが間違っ**て**悟**っ**てしまいます。何も考えずに法を読み、法が言**っ**ているのは正しいと思えば良いのです。法から自分が正しいと思**う**内容を探さないでください。法の中から自分の言い訳を探し、それだけを取り上げて自分を守ろうとしない**で**ください。それはいけません。それだ**つ**たら、読めば読むほど分からなくなります。つまりあなたの基点がどこに置かれて**い**るか**の**ことです。

弟子：現在最も速く圓滿成就するための道はどう**い**ったもの**な**のでしょ**う**か？

師：私は人々に最も速く、最も良い修煉形式を切り開きました。私たちは最も複雑な人の群れにお**り**、この複雑な環境も人々が速く向上することを促進しました。同時に、今日私たちはこれほど大きな法を伝え、この法も人々を速く向上させました。これより更に速くなることはある**の**でしょうか？ 大法が人間を済度することより速い方法はありません。業力に満ちた人間がまず考えるべき**な**のは、どのように業を返すか**の**ことであり、あなたに選択する資格はありません。

弟子：本を書き写すことは時間の無駄だ**と**思います。

師：あなたの考えは少し極端に走**っ**ています。

弟子：思想業力に勝つには、強い意識をもってそれを排除するほか別の良い方法はない**の**でしょうか？

師：ありません。あなたは手を出してそれを捕まえようとしてもできません。ほかに方法はありません。あなたの向上、あなたの思想業力の除去はあなたの次元の高まりにしたが**っ**て実現される**も**の**で**す。修煉は厳粛な**こ**とであり、あなたが思うようにやれること**で**はありません。各方面において非常に綿密かつ周到に**按**排してあげました。空想してはいけません。

弟子：体の最大のレベルの細胞が脱落した**後**、他の空間にある体の存在形

式はどういったものなのでしょうか？

師：人間があなたの生命の死亡によって死亡することはないと私はかつて言いました。法の中で既にこの問題について説きましたが、しかもはっきりと説きました。人間が死亡した時、あなたの最大の分子、つまり人間のこの体、表面にあるこの分子がこの空間で死亡し、脱落します。更にミクロ的な物質で構成された本当のあなたの体はなぜ死亡することがあるのでしょうか？ 死体焼却炉の火はあなたの更にミクロ的な物質を焼却することができず、そこまで届かないのです。皆さんに教えますが、人間の火がそれを焼却することができないのではなく、人間の火が原子核を燃やすことができず、熱度が足りないということではなく、この空間の火とミクロ的な物質との間に距離があるから、火はそこまで届かないのです。

弟子：「邪法を練る」という部分に、大覚者が自分の特性に従って新しい宇宙を建て直すと書いてありますが、もともとの特性と新しい宇宙は・・・。

師：この宇宙はあまりに膨大です。異なる次元の宇宙にみなこのような問題が表れたことがあります。しかし本の中で触れたのはこれほど膨大な天体のことではなく、そのようなことではありません。

天体の中に多くの宇宙があり、膨大な天体からそれを見ると、塵芥のように見えます。その中で、法の異なる次元において異なる宇宙は法に対して異なる次元の認識があります。例えば、ある次元での法の真実は生命に知らせることがありませんが、この法が表した特性は生命に知られることがあります。今日私が皆さんに説いたものも、皆さんがそこまで昇華した後の認識を概括に説いたのであって、その次元での本当の表れを皆さんは知らないのです。もしこの次元の生命が下から修煉して上がってきたのであれば（大法を修めるものを除く）、次元が高くなる過程でその次元の法と一致し、自分で修煉するものがあります。例えば、釈迦牟尼が「戒、定、慧」を説きましたが、彼のこの「戒、定、慧」も彼の次元の法理、その宇宙の法と一致しているのです。それによってその次元まで昇華したということです。宇宙全体は彼の法理によって構成されており、「戒、定、慧」によって構成されたのです。同時にこれも彼のすべての正果の演化原理であり、物質とその形式は全部彼のこのものに従って変化します。つまり、彼は根本的な法がその中に本当に現れているとは分かっていないのです。しかし、その表れを知ることができ、その次元のものを悟り、その次元で生きることができます。それで彼は自分のものを持つことができますが、つまり正しい悟りと果位です。

この次元にほかの佛と神がおり、彼らはこの次元の法理のもう一つの側面の認識を悟り、それもこの次元の法理と一致しています。それによって彼らも自分の果位を正しく悟ったのです。ほかの佛もこのように、そこで世界を作り、その次元の宇宙大法から自分の正しい悟りの結果を悟ったのです。しかし、皆それぞれ違いますが、皆その次元の基準に達しています。私が言ったことは分かったでしょうか？ 膨大な宇宙の中に、このような現象、異なる次元に現れるこのような現象はあまりに多いのです。このような宇宙で成、住、壊の入れ替わりは常に起こりますが、天体全体の法は永遠に変わらないのです。永遠にこの法であり、永遠に変わることがなく、しかも変わったこともありません。

弟子：師父が説法をした講習班に参加したことがある人とそうではない人は、師父と縁が違うほか、まだ差異があるのでしょうか？

師：実は皆さんに教えますが、修煉の中で皆さんに何の差異もありません。多くの私と深い縁のある人は当時講習班に参加しなかったのですが、それは彼自身の情況、状態とさまざまな要素と関わっています。

問題は全部回答しましたが、重複したものは取り除きました。また、常人が出した問題は回答する必要がないので、それも取り除きました。私は既に五時間も説きました。皆法を聞いたがっているので、更に五時間説いても足りないと思うでしょう。私がいくら説いても、その目的は一つしかありません。つまり、皆さんができるだけ速く向上し、速く修煉して高まってくることです。在席の多くが補導員であるため、仕事をきちんとかなしてほしいということが私の目的です。多くの問題があるということにいたっては、もし修煉の中の問題を私が全部回答してあげれば、皆さんは修煉できなくなります。おそらく修煉したとしても認められないでしょう。ですから、多くの問題は皆さん自分で悟らなければならず、自分で修めなければなりません。それこそ本当の修煉です。私はいつもこの話をしていますが、つまりあなたが圓滿成就して上がったら、莊嚴な大佛がそこに座っているのが見えます。すべての佛の威徳の樹立は皆偉大なものです。あなたはどのように上がってきたのでしょうか？ その時、恐る恐るになり、ここにいるべきではないとあなた自身が分かり、自ら降りていくのです。自分がそこにふさわしくないと考えています。ですから、皆さん一人一人の修煉は自分の境地に達しなければならず、すべての次元も着実に修煉しなければなりません。修煉はとりもなおさず嚴肅なことです！ 今日から、私の話をもって他人を照らさないでください。なぜならば、私は皆さんの情況について説いたからです。また、断片的に私の話を取り上げて解釈しないでください。更に、李先生があれこれ言った

のを聞いたと歓喜心を抱きながら他の人に話さないでください。その心が動じた途端、あなたは常人になります。皆さんが平穩で修煉できるように、以前現れた問題は二度と現れてほしくありません。

今日のこの環境は多くの困難と曲折に遭いましたが、私は修煉全体の環境を修正し、問題がないように正しく歩んできましたが、これは容易いことではありません。実は私にこれができます。私たちはいかなる有形な組織もなく、お金も物も貯蓄しません。皆さんに見えた良いところは、常人社会で何の勢力範囲も作っておらず、社会と政府にも妨害していないということです。これは皆さんの目に映った良いところですよ。実は皆さんに教えますが、実は法があるから、これほど大きな法があるから、私は手を離すことができます。学ぶかどうかは人間自身のことです。私たちは名簿もなく、誰その個人情報も把握していません。修煉さえすれば、私はあなたに対して責任を負うことができます。しかもこのような責任を負うことは常人社会に現れていません。修煉さえすれば、向上することができます、続けて修煉すれば圓滿成就できます。これらは皆常人社会に現れていません。

私たちがこのようにできたのは、この法に従ったからです。この法がこれほど大きいので、常人社会で伝わる時の形式に対しても厳しく要求しています。つまり、常人の中での形式もこの大法の要求に従うべきです。それでは、どのような形式がこれほど大きな法の要求に従い、常人社会で伝わっても汚されないのでしょうか？ それはほかでもなく、「大道無形」ということです。ですから、私たちは本当にこれをやり遂げたのです。無形、つまり常人社会でのいかなる形式もありません。しかし、私たちは真に人々に修煉させ、向上させることができます。私たちはこのように歩んできたのであって、このように行っており、最も良いものでもあります。いかなる人も私たちから欠点を見つけることができません。いくら私たちのあらを探したくても、それはできません。なぜならば、私たちに法があるからです。私も如何なる規定も作らないのですが、どのようにすべきかは皆さんに分かっています。

補導員の皆さんのことにいたっては、いわゆる補導員も、熱意からやっているだけなのです。名も利もなく、何もありませんが、熱意からラジカセを提げて皆さんを補導しているのです。皆そうなのです。熱意からの行動であり個人による行為です。実践から証明したように、この環境は私たちの修煉にとって最も良いのです。今までいかなる人を済度しようとした人も、敢えてこのようにすることができませんでした。なぜならば、彼にこれほど大きな法がないからです。今ま

で弟子を固く縛っており、規定と戒律の通りに修煉させたのです。今日私たちにこれほど大きな法があるので、オープンにして規定も作らなかったのです。いかなる有形のものもこの大法にふさわしくありません。また、いかなる規定も人の心を変えることができず、法だけがそれをできるのです。ですから、私たちはこの道を取ったのです。

補導站という形式は必要です。この種の補導站はいかなる企業事業部門のような形式を持っていません。家で生活しており、普段学習者に何か問題があったら、集まって一緒に話し合ったりして完全に一種の民衆による形式です。これは非常に良いと思います。どのように行うべきかについて検討したり、法を広めたりして、皆さんで何かをするなど、皆非常に良いと思います。

法会も大法特有のもので、ある程度になってから、集まってきます。法を良く勉強した人がいれば、法会を開き一緒に体験を語ります。これはほかの人を促し、向上させる作用があります。これは非常に良いのです。これも私たち特有のもので、

総じて言えば、皆さんはこの大法のために大いに貢献しました。もちろん、私は皆さんに形どおりのほめ言葉をかけませんが、皆さんが求めているのもこれではありません。皆さんが求めているのは功德であり、境地の向上と次元の向上です。ですから、私は皆さんをほめるようなことを話す必要もありません。あなたが大法に何かをするのは即ち、あなた自身のために行っており、なぜならば、あなたは大法の中の一員だからです。大法に対して責任を持つかどうかは、つまり自分自身に責任を持つかどうかということです。ですから、私も多く話す必要はありません。私はただ、修煉の中で、次元の中で、皆さんが向上する中で、皆さんの面倒を見ます。

常人の中でどのようにすべきかは、皆さんに分かっていると思います。ですから、今後これを更に良い始まりとして、仕事をよりよく行われるように期待します。同時、今日を通じて、今日は一つの法会ともいえますが、皆さんが更に大きく向上し、大きな進歩があることを期待しています。私はここで皆さんを前に押しているかもしれませんが、皆さん自身ははやく法を勉強し、時間を大事にして法を勉強し、それについて来られるのは着実なものとなります。更に勇猛邁進することを期待しています。ほかの人の圓滿成就を見るばかりではなく、自らも一日も早く圓滿成就できるように努力してください。

